

平成27年度 みやざき小中学校学習状況調査 分析結果



目次

I	調査の概要	
	実施の概要	・・・・・・・・・・・・ 1
II	各教科の分析結果	
II-1	小学校 各教科の分析	
1	小学校5年：国語	・・・・・・・・・・・・ 2
2	小学校5年：社会	・・・・・・・・・・・・ 6
3	小学校5年：算数	・・・・・・・・・・・・ 10
4	小学校5年：理科	・・・・・・・・・・・・ 14
II-2	中学校 各教科の分析	
1	中学校2年：国語	・・・・・・・・・・・・ 18
2	中学校2年：社会	・・・・・・・・・・・・ 22
3	中学校2年：数学	・・・・・・・・・・・・ 26
4	中学校2年：理科	・・・・・・・・・・・・ 30
5	中学校2年：英語	・・・・・・・・・・・・ 34
II-3	平均正答率の分布	
1	小学校における平均正答率の分布	・・・・・・・・・・・・ 38
2	中学校における平均正答率の分布	・・・・・・・・・・・・ 40

※ 付録 A層～D層についてもっと知りたい！

I 調査の概要

実施の概要

調査目的	県内の公立小・中学校及び中等教育学校（前期課程）、特別支援学校の小・中学部における児童生徒の学習の定着状況を把握・分析し、その結果をもとに、学校における学習指導の充実・改善等に役立てる。
実施日	平成27年9月2日(水)・3日(木)
調査対象校	市町村立小学校 230校 ※5年生児童が在籍していない10校（分校を含む）は除く 市町村立中学校 133校 五ヶ瀬中等教育学校（前期課程） 宮崎西高等学校附属中学校 都城泉ヶ丘高等学校附属中学校 特別支援学校3校（小学部3・中学部1） 宮崎大学教育文化学部附属小学校・宮崎大学教育文化学部附属中学校
対象学年	小学校第5学年（10,155人）
調査人数	中学校第2学年（10,298人）
調査実施内容	<p><学習状況調査></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校第5学年：国語、社会、算数、理科 ○ 中学校第2学年：国語、社会、数学、理科、英語 <p>※ 学習指導要領に示されている各教科の目標に即し、それぞれの教科の観点に沿った内容で調査を実施する。</p> <p>※ A問題：基礎的・基本的な知識・技能の定着状況をみる問題（各教科20問）</p> <p>※ B問題：知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力をみる問題（各教科5問）</p>

- ※ 2ページ以降の各教科の分析結果は、以下のデータに基づいて作成しております。
- 平均正答率：「正答率」の合計÷生徒数（%）
 正答率：できた問題数÷全問題数×100（%）
 - 「A層・B層・C層・D層」は、「正答率」を基に上位から4層に分けて表示しています。詳しくは、別添の「A層～D層についてもっと知りたい!」をご覧ください。
 - 観点・領域における「全体」の数値は、抽出した約1000名分のデータをもとに算出したものです。

Ⅱ 各教科の分析結果

Ⅱ-1 小学校 各教科の分析

1 小学校5年：国語

調査問題の趣旨・内容

読む能力	書かれている内容を理解するための基礎的・基本的な知識や能力が身に付いているかどうかをみる問題。 (例) ■登場人物の気持ちの変化について叙述を基に読み取ったり、優れた叙述について自分の考えをまとめたりする。 ■目的に応じて段落相互の関係を考えたり、事実と意見との関係を考えたりして文章を読み取る。
言語についての知識・理解・技能	言語事項に関する基礎的・基本的な知識や能力が身に付いているかどうかをみる問題。 (例) ■文脈に即して、漢字の正しい読み書きをする。 ■文脈に即して、ことわざや慣用句を正しく使う。 ■文の中における主語と述語、修飾語と被修飾語との関係を理解する。
書く能力	収集した資料を効果的に使い、説明する文章を書く力が身に付いているかどうかをみる問題。 (例) ■相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べる。 ■自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成する。
話す・聞く能力	相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立てて話すことができるかどうかをみる問題。 (例) ■自分の意見を述べるときに、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すことができる。

学習状況調査の結果概要

分類・観点・領域		全体	階層別			
		平均正答率(%)	A層	B層	C層	D層
分類	A B全体	64.3	82.9	62.9	40.5	17.0
	A 知識	65.9	82.9	64.8	44.3	19.5
	B 活用	57.9	83.2	55.2	25.4	7.1
観点	読む能力	60.3	82.4	59.2	34.6	14.3
	言語についての知識・理解・技能	70.1	83.2	70.8	55.4	20.9
	書く能力	64.4	86.9	64.1	37.0	11.6
	話す・聞く能力	45.7	80.4	40.8	6.8	8.7
領域	読むこと	60.3	82.4	59.2	34.6	14.3
	伝統的な言語文化と国語の特質	70.1	83.2	70.8	55.4	20.9
	書くこと	64.4	86.9	64.1	37.0	11.6
	話すこと・聞くこと	45.7	80.4	40.8	6.8	8.7

設問別正答率（％）

結果概要

学習定着状況

◇「分類A」＝「知識」に関する問題、「分類B」＝「活用」に関する問題

問題番号			出題内容	領域	観点	分類	全体	階層別				A層-D層	児童生徒 の無解答 の割合(%)
通し 番号	大問	小問						A層	B層	C層	D層		
1	1	1	指示語の役割登場人物の気持ち	読むこと	読む能力	A	44.2	74.8	39.9	10.7	4.3	70.5	2.9
2	1	2	慣用句の使い方	伝統的な言語文化と国語の特質	言語についての知識・理解・技能	A	80.2	92.8	80.9	66.9	26.1	66.7	0.9
3	1	3	登場人物の気持ち	読むこと	読む能力	A	73.7	94.5	77.2	40.9	17.4	77.1	8.7
4	1	4	登場人物の気持ちの変化	読むこと	読む能力	A	32.6	64.3	23.1	6.0	13.0	51.3	13.1
5	1	5	優れた叙述について自分の考えをまとめること	読むこと	読む能力	A	55.4	77.9	52.7	31.3	17.4	60.5	2.2
6	2	1	接続語の役割	読むこと	読む能力	A	74.0	92.6	75.2	49.5	21.7	70.9	1.3
7	2	2	指示語の役割	読むこと	読む能力	A	76.1	95.4	78.7	48.4	15.2	80.2	1.0
8	2	3	段落相互の関係	読むこと	読む能力	A	51.4	61.7	53.5	36.7	10.9	50.8	2.5
9	2	4	中心となる語や文	読むこと	読む能力	A	52.5	79.0	48.8	24.9	8.7	70.3	2.3
10	2	5	事実と意見との関係	読むこと	読む能力	A	63.0	90.8	61.5	30.2	8.7	82.1	2.7
11	3	1	筆順の理解	伝統的な言語文化と国語の特質	言語についての知識・理解・技能	A	59.5	70.2	61.2	45.2	15.2	55.0	0.9
12	3	2-(1)	漢字の書き	伝統的な言語文化と国語の特質	言語についての知識・理解・技能	A	71.7	90.2	74.3	45.9	10.9	79.3	3.7
13	3	2-(2)	漢字の書き	伝統的な言語文化と国語の特質	言語についての知識・理解・技能	A	79.4	91.5	82.3	63.7	15.2	76.3	4.7
14	3	2-(3)	漢字の読み	伝統的な言語文化と国語の特質	言語についての知識・理解・技能	A	94.8	98.2	96.3	94.0	43.5	54.7	1.5
15	3	2-(4)	漢字の読み	伝統的な言語文化と国語の特質	言語についての知識・理解・技能	A	96.4	99.1	98.3	94.3	54.3	44.8	1.5
16	3	3	ことわざの意味	伝統的な言語文化と国語の特質	言語についての知識・理解・技能	A	96.4	99.3	98.8	95.4	39.1	60.2	1.8
17	3	4	漢字辞典の用法	伝統的な言語文化と国語の特質	言語についての知識・理解・技能	A	66.3	88.0	65.6	40.9	15.2	72.8	3.0
18	3	5-(1)	主語・述語の関係	伝統的な言語文化と国語の特質	言語についての知識・理解・技能	A	34.3	54.0	28.5	20.3	4.3	49.7	2.6
19	3	5-(2)	修飾・被修飾の関係	伝統的な言語文化と国語の特質	言語についての知識・理解・技能	A	50.2	63.5	49.8	37.0	6.5	57.0	3.3
20	3	5-(3)	ローマ字の知識	伝統的な言語文化と国語の特質	言語についての知識・理解・技能	A	52.4	77.5	53.3	17.4	4.3	73.2	7.9
21	1	1	取材の方法	書くこと	書く能力	B	80.9	96.9	83.5	61.2	4.3	92.6	2.7
22	1	2	文章の構成	書くこと	書く能力	B	79.3	96.1	86.0	46.6	17.4	78.7	2.7
23	1	3	推敲の技能	書くこと	書く能力	B	32.9	67.6	22.8	3.2	13.0	54.6	12.2
24	1	4	文章の要約	読むこと	読む能力	B	48.5	81.2	45.9	8.2	6.5	74.7	13.5
25	1	5	感想の交流	話すこと・聞くこと	話す・聞く能力	B	42.9	79.6	35.6	5.3	10.9	68.7	19.1

特徴の見られた問題例 1

1 調査問題の趣旨

文の中における主語を捉えることができるかどうかをみる問題である。
 ※ A問題の中で平均正答率が低かった問題である。

2 学習指導要領との関連

第1学年及び第2学年 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕
 (1) イ 言葉の特徴やきまりに関する事項
 (カ) 文の中における主語と述語との関係に注意すること。

3 問題

(1) 問五

好きです。

ぼく	ア
妹	イ
ねこ	ウ
絵本	エ

(1) 次の文の〱線「好きです」の主語にあたるものを、線ア〜エから一つ選び、記号で答えましょう。

正答	イ	平均正答率	34.3	無解答率	2.6
----	---	-------	------	------	-----

【類似問題】
 平成26年度 問五(1)

平均正答率	49.9	無解答率	10.2
-------	------	------	------

4 改善のポイント

☆ 考察

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の中でも、特に言葉の特徴やきまりに関する事項の問題は、例年、平均正答率が低い傾向にあり、指導の工夫が必要である。

☆ 授業の改善に向けて

主語と述語は、文の骨格をなし、明確な文を書く上で最も基礎となるものである。主語と述語との照応関係が大切であるということについて、文や文章を理解したり表現したりするときに強く意識できるように指導することが大切である。



〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕は、「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「C読むこと」の指導を通して様々な機会をとらえ、継続的に指導しましょう。

「読むこと」の領域

◆ 物語などを読む学習をするときに、主語が省略された文を取り上げ、省略された主語が何であるかを考える。

「書くこと」の領域

◆ 自分が書いた文章を推敲する学習をするときに、表記の間違いを正すだけでなく、主語と述語の照応についても着目する。

特徴の見られた問題例 2

1 調査問題の趣旨

日常生活で使われている慣用句の意味を知り、正しく使うことができるかどうかをみる問題である。
 ※ A問題の中で、過去の類似問題と比較して平均正答率が上がった問題である。

2 学習指導要領との関連

第3学年及び第4学年 [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]
 (1) ア 伝統的な言語文化に関する事項
 (イ) 長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。

3 問題

<p>エ ウ イ ア ぬ 入 の は いた れ た ず た た だ ませ た た た せ た た た た</p>	<p>記号で答えましょう。</p>	<p>文章中の②に最もよくあてはまる言葉を、次のア～エから選び、</p>	<p>一 問二</p>	<p>舟崎靖子作「やい、とかげ」の一部を読んで答える問題</p>	<p>けれど、それだけではなかった。石に当たったろうせきはバウンドして、とかげに当たった。ぼくは息を②。</p>
--	-------------------	--------------------------------------	-----------------	----------------------------------	--

正答	イ
----	---

平均正答率	80.2	無解答率	0.9
-------	------	------	-----

【類似問題】
 平成26年度 三 問三

平均正答率	56.2	無解答率	7.0
-------	------	------	-----

4 改善のポイント

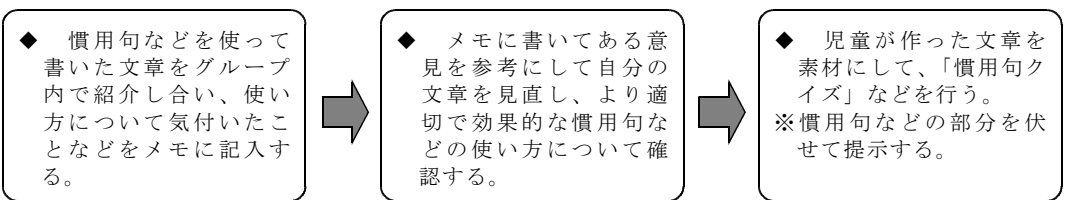
☆ 考察
 過去の類似問題と比較して、平均正答率が大幅に上がっている。しかし、A層～D層の差が66.7%と大きな開きがある。児童が慣用句などに興味や関心を持ち、自分の表現に活用できるようにするなど、指導の工夫が必要である。

☆ 授業の改善に向けて

慣用句などを自分の表現に活用させるためには、取り上げた慣用句などをどのように使うことが適切かについて吟味することができるように指導することが大切である。



ことわざや慣用句、故事成語などについて学習するときは、児童の興味や関心に応じて言葉の意味を調べることに加え、短文作りをさせたり、スピーチで使用させたりするなど、自分の表現に活用させましょう。



2 小学校5年：社会

調査問題の趣旨・内容

知識・理解	社会的事象についての基礎的・基本的な知識が身に付いているかどうかをみる問題。 (例) ■世界の主な海洋や大陸を理解している。 ■主な地図記号や方位を理解している。
資料活用	社会的事象を観察、調査したり、複数の資料を効果的に活用したりして、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる問題。 (例) ■地図やグラフから数値や変化を正しく読み取る。 ■課題に応じて、必要な資料を選択して読み取る。
思考・判断・表現	社会的事象の特色や相互の関連について考えることができるかどうかをみる問題。 (例) ■資料から考察し、文章で表現する。 ■資料から見つけた根拠を基に自分の考えをもち、説明する。

学習状況調査の結果概要

分類・観点・領域		全体	階層別			
		平均正答率(%)	A層	B層	C層	D層
分類	A B全体	60.9	83.8	62.5	39.7	17.6
	A 知識	66.9	88.3	69.5	46.5	21.3
	B 活用	36.9	65.7	34.5	12.5	2.7
観点	知識・理解	63.7	86.1	65.5	44.6	19.7
	資料活用	65.6	88.8	69.2	43.3	17.9
	思考・判断・表現	51.8	76.9	52.2	30.3	12.5
領域	身近な地域	68.0	87.4	69.3	52.6	27.4
	世界の中の国土	61.1	85.4	62.2	40.5	17.3
	県の様子	50.4	78.7	51.3	25.3	8.2
	人々の生活	78.2	95.5	84.9	59.6	24.1
	安全を守る工夫	33.1	61.9	30.6	10.1	2.4

設問別正答率（％）

結果概要

学習定着状況

◇「分類A」＝「知識」に関する問題、「分類B」＝「活用」に関する問題

問題番号			出題内容	領域	観点	分類	全体	階層別				A層-D層	児童生徒 の無解答 の割合(%)
通し 番号	大問	小問						A層	B層	C層	D層		
1	1	1(1)	地図の読み取り	身近な地域	知識・理解	A	87.7	97.9	90.9	79.4	50.0	47.9	0.9
2	1	1(2)	地図の読み取り	身近な地域	知識・理解	A	83.5	90.5	85.1	80.0	52.4	38.1	0.6
3	1	2	地図の読み取り	身近な地域	資料活用	A	54.9	78.3	53.5	38.3	17.9	60.4	0.5
4	1	3	地図の読み取り	身近な地域	思考・判断・表現	A	68.1	88.8	69.4	50.0	31.0	57.8	0.8
5	1	4(1)(2)	地図の読み取り	身近な地域	知識・理解	A	58.4	85.2	59.8	35.4	10.7	74.5	2.2
6	1	4(3)	地図の読み取り	身近な地域	知識・理解	A	55.6	83.5	57.3	32.3	2.4	81.1	2.6
7	2	1	世界の主な海洋の名称	世界の中の国土	知識・理解	A	81.8	94.7	86.2	70.3	35.7	59.0	2.4
8	2	2	世界の主な大陸の名称	世界の中の国土	知識・理解	A	61.5	85.7	63.8	40.0	15.5	70.2	1.1
9	2	3	主な国の名称と位置	世界の中の国土	知識・理解	A	63.3	92.4	68.0	34.0	8.3	84.1	2.4
10	2	3	主な国の国旗	世界の中の国土	知識・理解	A	59.8	87.4	64.0	32.3	8.3	79.1	1.3
11	2	4	地球儀の見方	世界の中の国土	知識・理解	A	65.2	83.1	62.6	55.7	33.3	49.8	1.3
12	2	5	我が国の領土	世界の中の国土	知識・理解	A	34.7	69.0	28.8	10.9	2.4	66.6	8.4
13	3	1	県の特徴	県の様子	資料活用	A	57.9	85.2	60.8	31.4	11.9	73.3	2.0
14	3	2	我が国の領土	県の様子	知識・理解	A	43.4	69.5	40.7	25.4	7.1	62.4	2.0
15	3	3	都道府県の名称と位置	県の様子	資料活用	A	63.9	90.5	66.6	39.4	14.3	76.2	2.8
16	3	4	都道府県の名称と位置	県の様子	知識・理解	A	69.7	95.0	78.1	39.7	10.7	84.3	3.4
17	4	1(1)	適切なグラフの選択	人々の生活	資料活用	A	70.1	92.4	76.7	46.6	11.9	80.5	2.5
18	4	1(2)	ごみを減らす取組	人々の生活	思考・判断・表現	A	74.9	94.3	80.6	56.3	17.9	76.4	2.3
19	4	2(1)	ごみを減らす取組	人々の生活	資料活用	A	81.1	97.6	88.5	60.6	33.3	64.3	2.9
20	4	2(2)	ごみの処理と利用	人々の生活	思考・判断・表現	A	86.7	97.6	93.7	74.9	33.3	64.3	3.4
21	1	1	交通事故の防止	安全を守る工夫	思考・判断・表現	B	25.8	47.7	23.3	9.1	2.4	45.3	4.9
22	1	2	交通事故の防止	安全を守る工夫	思考・判断・表現	B	40.5	76.1	37.9	11.1	2.4	73.7	5.5
23	2	1	地域の産業	県の様子	思考・判断・表現	B	52.8	87.8	52.1	22.9	8.3	79.5	3.7
24	2	2	地域の産業	県の様子	思考・判断・表現	B	38.7	74.2	36.7	8.0	2.4	71.8	10.2
25	2	3	地域の産業	県の様子	思考・判断・表現	B	26.6	48.9	23.8	10.3	2.4	46.5	5.5

特徴の見られた問題例 1

1 調査問題の趣旨

我が国の領土について、北方領土の名称や位置を理解していることをねらいとしている問題である。
 ※ A問題の中で、平均正答率が最も低かった問題である。

2 学習指導要領との関連

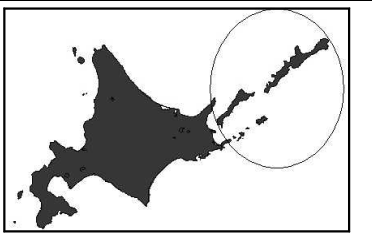
第5学年 (1) ア
 世界の主な大陸と海洋，主な国の名称と位置，我が国の位置領土

3 問題

2 あきらさんたちは、地球儀を使って日本と世界の国々の位置を学習しています。あとの1～5の問いに答えましょう。

5 あきらさんたちは、地図を見ながら日本の領土について説明しました。次の にあてはまる言葉を書きましょう。

右の地図で、北海道の○で囲まれている島々は、日本の領土です。これらの島々は、 とよばれています。



正 答	北方領土	平均正答率	34.7	無解答率	8.4
-----	------	-------	------	------	-----


【類似問題】

平成26年度 **1** 4

平均正答率	62.7	無解答率	1.4
-------	------	------	-----

4 改善のポイント

☆ **考察**
 昨年度の類似問題と比較して、A層からD層までのすべての層で平均正答率が下がっており、特にA～C層においては20%以上も下がっており、指導の工夫が必要である。



☆ **系統性**

- ・ **領土教育の充実**
 中学校及び高等学校の学習指導要領解説の一部改訂により、社会科では領土に関する教育の充実が示されている。小学校段階で我が国の領土に関して具体的に捉えさせておく必要がある。
小学校第5学年「我が国の位置領土」 ⇔ 中学校第2学年「日本の地域構成」

☆ **授業の改善に向けて**

- ・ **具体的に領土をとらえさせる活動場面の設定**
 地図帳や地球儀などを活用し、調べて確認したことを白地図にまとめる活動などを通して、我が国の位置と領土を具体的に捉えられるように指導を工夫する必要がある。

特徴の見られた問題例 2

1 調査問題の趣旨

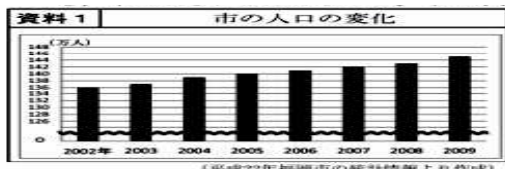
ごみ処理に関する変化の様子から、適切なグラフを選択することをねらいとしている問題である。
 ※ 昨年度の類似問題より平均正答率はやや上がっているが、D層の平均正答率は変わらず、A層－D層の差が大きかった問題である。

2 学習指導要領との関連

第3学年及び第4学年 (3) ア
 飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理と自分たちの生活や産業とのかかわり

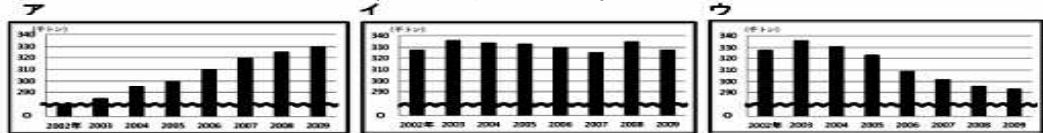
3 問題

4 こうじさんとまりさんは、「ごみのしよりと利用」をテーマにして、資料を集めて調べることにしました。あとの1, 2の問いに答えましょう。
 1 次の資料1, 2は、こうじさんたちの住んでいる市の人口と家庭ごみのしより量の変化をグラフにしたものです。こうじさんは、グラフからわかったことや考えたことを、下の(1), (2)の問いに答えましょう。



【わかったこと】
 ○ 市の人口は、毎年、1年間に約1万人くらいふえつづけている。
 ○ ごみのしより量は、2002年から2003年にかけてはふえたが、2004年からあとは、へりつづけている。
【考えたこと】
 ○ 人口がふえているのに、ごみのしより量がへりつづけているのは、市の人たちがごみの量をへらす取り組みを行っているからではないだろうか。

(1) 資料2の①に入るのは、どのグラフになりますか。上の【わかったこと】をもとに、次のア～ウから正しいものを1つ選び、記号で答えましょう。



正 答	ウ	平均正答率	70.1	無解答率	2.5
-----	---	-------	------	------	-----

【類似問題】 平成26年度	3	1 (1)	平均正答率	66.7	無解答率	4.1
------------------	----------	-------	-------	------	------	-----

4 改善のポイント

☆ **考察**
 昨年度の類似問題より平均正答率はやや上がっており、資料の活用に改善が見られる。しかし、D層の平均正答率は変わっておらず、A－D層の差が80%を超えており、資料の活用の授業の場面では、D層への手立てが必要である。

☆ **授業の改善に向けて**

- ・ **資料活用の場面設定**
 ごみの処理量などをグラフを使って学習する際に、グラフから読み取ることができる全体的な傾向に気付かせるとともに、およそ何倍に変化しているかなど、グラフを多面的に読み取らせる指導を行う必要がある。
- ・ **児童に自ら疑問を感じさせる資料の提示**
 単元計画において、児童に自ら疑問をもたせるような資料を教師が用意し、自分の考えや立場を根拠となる事実や資料を基に、図や文章で表現する学習場面を授業に設けることが大切である。

3 小学校5年：算数

調査問題の趣旨・内容

技能	<p>計算をしたり、面積を求めたり、図形を構成したり、数量の関係などを表したり調べたりするなどの技能が身に付いているかどうかをみる問題。</p> <p>(例) ■小数の減法、除法の計算をする。 ■合同な三角形の作図をする。</p>
知識・理解	<p>数量の意味や表し方、計算の意味、測定の意味、図形の意味及び数量の関係などについて理解しているかどうかをみる問題。</p> <p>(例) ■分数の大小関係を理解している。 ■およその面積を理解している。</p>
数学的な考え方	<p>日常の事象について見通しをもち、筋道を立てて考え、表現したり、そのことから考えを深めたりするなど、数学的な考え方の基礎が身に付いているかどうかをみる問題。</p> <p>(例) ■式の意味を読み取り、適切な図を選ぶことができる。 ■根拠となる言葉や数を用いて、比例の関係になっている理由を説明することができる。</p>

学習状況調査の結果概要

分類・観点・領域		全体	階層別			
		平均正答率(%)	A層	B層	C層	D層
分類	A B全体	62.3	83.3	62.7	40.0	17.3
	A 知識	67.3	86.4	69.0	45.6	20.4
	B 活用	42.2	71.0	37.5	17.8	5.0
観点	技能	73.7	93.6	77.9	50.6	20.7
	知識・理解	39.6	61.3	37.2	21.6	12.3
	数学的な考え方	50.9	77.0	48.5	29.0	15.0
領域	数と計算	66.2	85.4	68.3	46.8	21.4
	数量関係	65.7	84.6	67.6	46.8	21.9
	量と測定	48.8	76.8	47.4	22.7	9.8
	図形	63.2	85.6	66.2	37.9	14.2

設問別正答率 (%)

結果概要

学習定着状況

◇ 「分類A」 = 「知識」に関する問題、「分類B」 = 「活用」に関する問題

問題番号			出題内容	領域	観点	分類	全体	階層別				A層-D層	児童生徒 の無解答 の割合(%)
通し 番号	大問	小問						A層	B層	C層	D層		
1	1	(1)	小数の減法の計算	数と計算	技能	A	85.7	99.0	92.8	68.0	26.1	72.9	1.0
2	1	(2)	3位数×1位数の計算	数と計算	技能	A	90.1	96.9	91.9	85.4	59.1	37.8	0.6
3	1	(3)	整数÷小数	数と計算	技能	A	69.7	95.5	76.5	34.9	6.8	88.7	1.2
4	1	(4)	整数-分数	数と計算	技能	A	87.3	97.9	93.1	74.4	35.2	62.7	1.5
5	1	(5)	四則の混合した計算	数量関係	技能	A	84.6	94.7	88.1	78.6	29.5	65.2	1.3
6	1	(6)	分数の大小関係	数と計算	知識・理解	A	13.9	35.3	7.1	1.8	2.3	33.0	0.6
7	1	(7)	分数の意味	数と計算	知識・理解	A	46.6	80.9	43.7	14.9	6.8	74.1	1.5
8	1	(8)	四捨五入による概数の表し方	数と計算	数学的な考え方	A	70.2	92.6	73.0	48.0	13.6	79.0	1.7
9	2	(1)	分度器を使った角の大きさの測定	量と測定	技能	A	82.0	94.3	87.2	66.9	31.8	62.5	0.8
10	2	(2)	およその面積	量と測定	知識・理解	A	27.8	43.4	24.2	17.1	13.6	29.8	0.5
11	3	(1)	L字型の複合図形の面積	量と測定	技能	A	62.3	93.6	68.5	19.9	1.1	92.5	1.9
12	3	(2)	体積の単位換算	量と測定	技能	A	59.4	90.7	60.7	26.7	5.7	85.0	2.5
13	4	(1)	四角形の対角線の性質	図形	知識・理解	A	34.6	60.1	31.5	12.1	8.0	52.1	1.5
14	4	(2)	合同な図形の作図	図形	技能	A	81.0	96.2	86.3	62.3	28.4	67.8	2.4
15	5	(1)	球の直径	図形	技能	A	64.3	91.4	68.1	33.1	6.8	84.6	3.7
16	5	(2)	直方体の頂点の位置関係	図形	数学的な考え方	A	72.7	94.7	78.8	44.1	13.6	81.1	1.9
17	6	(1)	資料の整理	数量関係	知識・理解	A	75.2	86.9	79.4	61.9	30.7	56.2	2.3
18	6	(2)	式を読み取ること	数量関係	数学的な考え方	A	86.0	96.7	88.4	75.4	51.1	45.6	2.1
19	7	(1)	折れ線グラフの読み取り	数量関係	技能	A	75.3	94.5	81.8	50.5	13.6	80.9	2.3
20	7	(2)	折れ線グラフの読み取り	数量関係	技能	A	61.2	88.1	59.5	38.1	19.3	68.8	3.3
21	1	(1)-1	変わり方を調べて	数量関係	技能	B	80.8	96.7	89.0	56.9	19.3	77.4	2.3
22	1	(1)-2	変わり方を調べて	数量関係	技能	B	47.6	80.4	47.1	12.5	6.8	73.6	5.1
23	1	(2)	変わり方を調べて	数量関係	数学的な考え方	B	15.1	39.1	7.4	0.7	4.5	34.6	25.8
24	2	(1)	実生活の場面における活用	量と測定	数学的な考え方	B	34.9	76.4	26.5	2.8	3.4	73.0	6.4
25	2	(2)	実生活の場面における活用	量と測定	数学的な考え方	B	26.7	62.5	17.2	2.8	3.4	59.1	10.1

特徴の見られた問題例 1

1 調査問題の趣旨

「およその面積」において、量の大きさについての感覚が身に付いているか、基本的な平面図形の面積の求め方について理解しているかどうかをみる問題である。
※ A問題の中で、最も平均正答率が低かった問題である。

2 学習指導要領との関連

第4学年 量と測定 (1) ア 面積の単位
 イ 正方形及び長方形の面積の求め方

3 問題

2(2) 面積が500cm² に最も近いと考えられるものはどれですか。次のア～エから1つ選び、記号で答えましょう。

ア はがきの面積
 イ 算数の教科書の表紙の面積
 ウ 教室の子ども用のつくえの面積
 エ 体育館のゆかの面積

正答	イ	平均正答率	27.8	無解答率	0.5
----	---	-------	------	------	-----

【類似問題】平成26年度 **3**(2)

平均正答率	34.3	無解答率	2.6
-------	------	------	-----

【類似問題】平成25年度 **3**(1)

平均正答率	68.0	無解答率	1.2
-------	------	------	-----

4 改善のポイント

☆ **考察**
 平成26年度が3000cm²、平成25年度が6m²の出題であったが、年々平均正答率が下がってきている。身の回りにあるものの中から、示された面積に最も近いものを選び出すことに課題がみられるため、指導の工夫が必要である。

☆ **系統性**
 今までに指導してきた量は、計器を用いて測定してきた。しかし、面積は計器を用いて測定するのではなく、辺の長さを用いて計算によって求めることに注意する。

小学校第1学年
「大きさくらべ」

➡

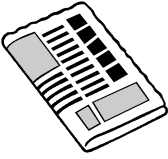
小学校第4学年
「正方形・長方形の面積」

➡

小学校第5学年
「三角形の面積・直方体の体積」

☆ **授業の改善に向けて**

- ・ **面積の大きさについての感覚を豊かにする算数的活動の設定**
 - ① **求める活動の設定**
 折り紙、机、新聞紙、教室など、身の回りのものの面積を、縦や横の長さの見当を付けさせ、およその面積を求めさせる。
 - ② **比較する活動の設定**
 およその面積を求めるだけでなく、実際の長さを測定し、求めた面積とおよその面積とを比較する活動を取り入れる。
感覚が豊かになれば、面積・体積などの理解が深まります。



特徴の見られた問題例 2

1 調査問題の趣旨

出題内容「合同な図形の作図」において、図形の約束や性質を理解して平行四辺形を作図することができるかどうかをみる問題である。

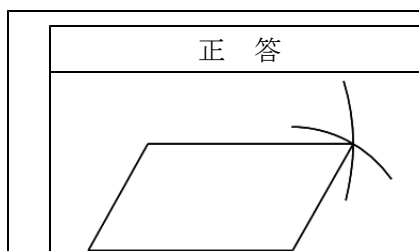
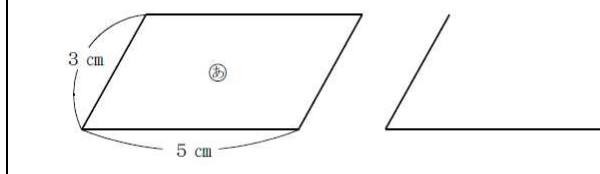
※ 過去の類似問題に比べ、平均正答率が上がった問題である。

2 学習指導要領との関連

第4学年 図形 (1) ア 直線の平行や垂直の関係について理解すること
イ 平行四辺形, ひし形, 台形について知ること

3 問題

④(2) 次の平行四辺形③と合同な平行四辺形をかきます。定規とコンパスを使って、合同な平行四辺形を完成させましょう。解答用紙にある図に続けてかき、コンパスの線は消さずに残しておきましょう。



平均正答率	81.0	無解答率	2.4
-------	------	------	-----

【類似問題】

平成25年度 ④(2)

平均正答率	66.6	無解答率	4.2
-------	------	------	-----

【全国類似問題】

平成26年度 ⑥

平均正答率	56.9	無解答率	0.4
-------	------	------	-----

4 改善のポイント

☆ 考察

過去の類似問題に比べ、平均正答率が大幅に上がっている。しかし、全国学力学習状況調査において、平行四辺形の特徴を選ぶ問題では、課題がみられる。作図が単なる作業に終わらないように、図形の約束や性質の理解を図るような、指導の工夫が必要である。

☆ 系統性

小学校第3学年
「二等辺三角形のかき方」



小学校第4学年
「垂直・平行と四角形」

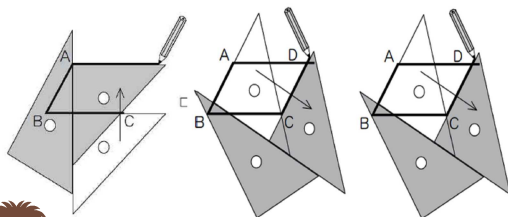


小学校第5学年
「合同な図形」

☆ 授業の改善に向けて

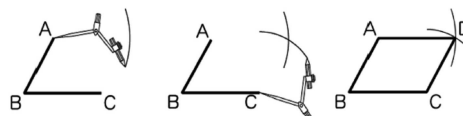
・ 作図で用いた図形の特徴を説明させる活動の設定

○ 1組の三角定規を使って



ぼくは、向かいあう辺が平行になるように、三角定規を使って辺をかきました。

○ コンパスを使って



わたしは、向かいあう辺の長さが等しくなるように、コンパスで印をつけて辺をかきました。

4 小学校5年：理科 調査問題の趣旨・内容

知識・理解	<p>自然の事物・現象についての基礎的・基本的な知識が身に付いているかどうかをみる問題。</p> <p>(例) ■植物の育ち方には、一定の順序があることを理解している。</p> <p>■光の重なり方によって、明るさやあたたかさが異なることを理解している。</p>
観察・実験の技能	<p>自然の事物・現象について、課題を追究するための観察・実験に必要な技能が身に付いているかどうかをみる問題。</p> <p>(例) ■星座早見の正しい使い方に関する観察・実験の技能を身に付けている。</p> <p>■顕微鏡の正しい使い方に関する観察・実験の技能を身に付けている。</p>
思考・表現	<p>自然の事物・現象の共通性や相互のかかわり、性質や変化、規則性についての見方や考え方が身に付いているかどうかをみる問題。</p> <p>(例) ■実験結果から、日なたと日かげにおける水の蒸発の違いについて説明することができる。</p> <p>■ガラスは磁石につかない性質を使い、ガラスビンの選別について説明することができる。</p>

学習状況調査の結果概要

分類・観点・領域		全体	階層別			
		平均正答率 (%)	A層	B層	C層	D層
分類	A B 全体	67.2	82.8	63.6	41.1	18.9
	A 知識	69.6	83.0	66.8	46.6	22.6
	B 活用	57.7	81.9	50.8	19.2	4.3
観点	知識・理解	74.6	88.1	71.9	50.3	20.2
	観察・実験の技能	49.6	59.2	45.1	40.5	22.2
	思考・表現	57.1	80.4	50.3	16.5	6.1
領域	生命・地球（生命）	68.2	80.2	64.4	51.5	23.0
	物質・エネルギー（エネルギー）	62.3	80.1	57.8	30.2	12.9
	生命・地球（地球）	81.2	91.0	79.9	64.3	25.6
	物質・エネルギー（粒子）	65.7	86.8	61.1	25.3	8.0

設問別正答率(%)

結果概要

学習定着状況

◇「分類A」=「知識」に関する問題、「分類B」=「活用」に関する問題

問題番号			出題内容	領域	観点	分類	全体	階層別				A層-D層	児童生徒 の無解答 の割合(%)
通し 番号	大問	小問						A層	B層	C層	D層		
1	1	1	植物の種子	生命・地球(生命)	知識・理解	A	51.5	73.4	41.7	26.9	6.7	66.7	0.2
2	1	2	虫眼鏡の使い方	生命・地球(生命)	観察・実験の技能	A	36.9	52.5	28.4	23.4	16.7	35.8	0.2
3	1	3	植物の育ち方	生命・地球(生命)	知識・理解	A	96.7	98.9	96.5	94.7	73.3	25.6	0.4
4	2	1	回路	物質・エネルギー (エネルギー)	知識・理解	A	78.1	95.4	74.5	44.4	26.7	68.7	2.5
5	2	2	回路	物質・エネルギー (エネルギー)	知識・理解	A	60.9	85.7	51.8	24.6	10.0	75.7	0.5
6	2	3	回路図	物質・エネルギー (エネルギー)	知識・理解	A	16.9	28.9	10.8	3.5	10.0	18.9	14.6
7	3	1	星の観察の仕方	生命・地球(地球)	観察・実験の技能	A	95.1	97.7	95.7	92.4	50.0	47.7	0.8
8	3	2	星の名前	生命・地球(地球)	知識・理解	A	55.6	76.4	48.3	24.6	10.0	66.4	0.4
9	3	3	星の動き方	生命・地球(地球)	知識・理解	A	92.9	98.9	95.6	76.0	16.7	82.2	0.4
10	4	1	光の反射	物質・エネルギー (エネルギー)	知識・理解	A	76.3	91.4	75.3	40.4	20.0	71.4	0.5
11	4	2	光の反射	物質・エネルギー (エネルギー)	知識・理解	A	93.0	99.8	95.3	73.1	26.7	73.1	0.4
12	4	3	光の反射	物質・エネルギー (エネルギー)	思考・表現	A	54.1	79.6	45.1	15.2	3.3	76.3	5.0
13	5	1	メダカの体の形状	生命・地球(生命)	知識・理解	A	80.3	92.7	77.8	59.1	26.7	66.0	0.6
14	5	2	顕微鏡の使い方	生命・地球(生命)	観察・実験の技能	A	16.6	27.5	11.0	5.8	0.0	27.5	0.6
15	5	3	メダカの受精・食べ物	生命・地球(生命)	知識・理解	A	91.7	99.3	91.9	80.1	10.0	89.3	0.8
16	6	1	チョウの育ち方	生命・地球(生命)	知識・理解	A	95.3	99.6	96.9	85.4	36.7	62.9	1.0
17	6	2	昆虫の育ち方	生命・地球(生命)	知識・理解	A	75.2	89.6	72.9	48.0	13.3	76.3	1.2
18	6	3	チョウの体のつくり	生命・地球(生命)	知識・理解	A	69.2	88.2	62.7	40.4	23.3	64.9	4.7
19	7	1	金属の温まり方	物質・エネルギー (粒子)	知識・理解	A	75.0	94.1	74.4	26.9	6.7	87.4	7.8
20	7	2	金属の温まり方	物質・エネルギー (粒子)	知識・理解	A	84.3	97.1	84.2	56.1	6.7	90.4	2.3
21	1	1	磁石の性質	物質・エネルギー (エネルギー)	思考・表現	B	76.3	93.2	75.7	35.1	6.7	86.5	0.8
22	1	2	磁石の性質	物質・エネルギー (エネルギー)	思考・表現	B	42.8	66.8	34.3	5.3	0.0	66.8	3.5
23	2	1	水のゆくえ	物質・エネルギー (粒子)	思考・表現	B	68.8	90.5	64.8	23.4	10.0	80.5	3.1
24	2	2	水のゆくえ	物質・エネルギー (粒子)	思考・表現	B	50.6	75.5	41.5	11.7	10.0	65.5	2.5
25	2	3	水のゆくえ	物質・エネルギー (粒子)	思考・表現	B	50.1	76.6	40.6	8.2	6.7	69.9	5.1

特徴の見られた問題例 1

1 調査問題の趣旨

板状の金属では、熱した部分を中心とする同心円状に熱が伝わっていくことを理解しているかどうかをみる問題である。
 ※ 平均正答率は高かったが、A層－D層の差が大きかった問題である。

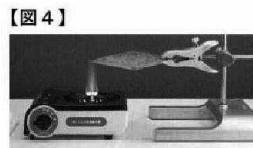
2 学習指導要領との関連

第4学年 A 物質・エネルギー (2) 金属、水、空気と温度
 イ 金属は、熱せられた部分から順に温まるが、水や空気は熱せられた部分が移動して全体が温まること。

3 問題

7 【実験2】

- ① 金ぞくの板にろうをぬり、図4のように板のはしの部分を熱して、ろうのとけ方をしらべた。
- ② ろうをぬった金ぞくの板を別に用意し、板の真ん中を熱して、ろうのとけ方を調べた。



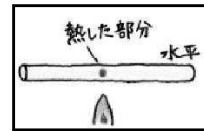
2 結果2は、実験2の①の結果を表したものです。実験2の②で、図5のように金ぞくの板を熱したとき、ろうはどのような順にとけるでしょう。正しい順になるよう、図5のア～エをならべかえましょう。

正答	ウ→エ→イ→ア	平均正答率	84.3	無解答率	2.3
----	---------	-------	------	------	-----

4 改善のポイント

☆ 考察

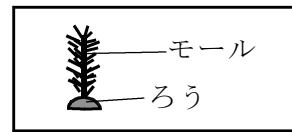
平均正答率は高く、多くの児童は理解しているが、A層－D層の差が大きく、理解が十分でない児童も少なくないと考えられる。右の〔1の問題〕では、A層－D層の差が大きく、さらに、無解答率も高かった。十分理解できていない児童に対する手立てが必要な内容である。



〔1の問題〕

☆ 授業改善に向けて

- ・ 実験の結果が視覚的に分かりやすくなる工夫
 鉄の棒や鉄板の上にろうを置くだけでなく、その上にモール等を短く切った物を立てると、視覚的に分かりやすく、印象に残りやすい。



また、この実験は、鉄板の厚さや大きさによって、熱がうまく伝わらないこともある。鉄板の厚さを薄くしたり、大きさを小さくしたりするなどの工夫も必要である。

【参考】NHK for school のWEBサイト

「大科学実験 実験67 熱はどこまで伝わる？」

・ 予想が一致した場合に得られる結果を見通した実験の構想

学習問題 「金ぞくは、どのようにあたたまっていくのだろうか。」

予 想	<p>予想1 「熱した部分から順に温まっていく。」</p>	<p>予想2 「鉄板のふちに沿って温まっていき、その後中に温まる。」</p>	<p>予想3 「熱した部分に関係なく、全体的に同じように温まる。」</p>
	<p>実験計画と見通し</p> <p>エ オ アイ ● ウ カ</p>	<p><実験> ●の部分(ろう)を熱した時、ア～カの部分に置いたろうのとける順を調べる。</p>	<p><見通し> 予想1 アイウ → エオカ 予想2 アウ → エカ → イ → オ 予想3 すべて同じくらいの時にとける。</p>

特徴の見られた問題例 2

1 調査問題の趣旨

顕微鏡の正しい使い方に関する技能を身に付けているかどうかをみる問題である。
 ※ 平均正答率が最も低かった問題である。

2 学習指導要領との関連

第5学年 B 生命/地球 (2) 動物の誕生
 ア 魚には雌雄があり、生まれた卵は日がたつにつれて中の様子に変化してかえること。
 イ 魚は、水中の小さな生物を食べ物にして生きていること。

3 問題

5 2 メダカは、人がえさをあたえなくても、自然の池や川で育っています。そこで、池や川の水中には、メダカが食べるえさがあるかどうかを調べるために、プレパラートをつくってけんび鏡で観察しました。正しいけんび鏡の使い方の順になるよう、次のア～エをならべかえましょう。

- ア 接眼レンズをのぞきながら、調節ねじを回してピントを合わせる。
- イ 接眼レンズをのぞきながら、反しや鏡を動かして明るく見えるようにする。
- ウ 横から見ながら調節ねじを回し、対物レンズとプレパラートをできるだけ近づける。
- エ プレパラートをのせ台に置き、クリップでとめる。

正答	イ→エ→ウ→ア
----	---------

平均正答率	16.6	無解答率	0.6
-------	------	------	-----

【類似問題】

平成27年度全国学力・学習状況調査 2 (4)

正答率	38.3	無解答率	1.0
-----	------	------	-----

4 改善のポイント

☆ 考察

平均正答率が低く、適切な操作方法を理解していない児童が多い。顕微鏡に限らず、観察・実験器具の名称や操作方法是、全国学力・学習状況調査においても課題がみられる。

☆ 授業改善に向けて

- ・ 器具を使用する必然性をもたせること
 単なる作業ではなく、観察・実験の対象や目的に応じて意図的に使用することを、子どもたちに実感させる。



肉眼や虫眼鏡では十分観察できないね、もっと拡大できないかなあ。

- ・ ICT機器を使って指導すること

【参考】
 平成27年度全国学力・学習状況調査 解説資料

- デジカメやスマホを接眼レンズにあて、録画機能を使って説明資料を作るとよい。

ピントの合わせ方

<ピントが合っているとき> <ピントが合っていないとき>



調節ねじを回してピントを合わせるとはっきり見えるね。

- ※ 観察・実験器具の適切な操作については、最初に使用するとき、しっかり身に付けさせる。ペアやグループで確認したり、パフォーマンス評価をしたりするなどの工夫が必要である。

<作ってみましょう！ 理科コーナー!!!>
 新聞等の 理科に関する話題
 覚えよう コーナー

Ⅱ-2 中学校 各教科の分析

1 中学校2年：国語

調査問題の趣旨・内容

読む能力	「読むこと」の領域において、基礎的・基本的な知識や能力が身に付いているかどうか、またそれらを活用できるかどうかをみる問題。 (例) ■文章の構成や展開に即して、登場人物の心情をとらえたり、文章の内容や要旨をとらえたりする。 ■資料の情報を読み取り、文脈に即して見出しをつける。
言語についての知識・理解・技能	言語事項に関する基礎的・基本的な知識や能力が身に付いているかどうかをみる問題。 (例) ■文脈に即して、漢字の正しい読み書きをする。 ■文脈に即して、文節や文の成分を理解する。
書く能力	「書くこと」の領域において、基礎的・基本的な知識や能力を活用できるかどうかをみる問題。 (例) ■資料の情報を読み取り、それを効果的に活用し、伝える文章を書くことができる。
話す能力 聞く能力	「話すこと・聞くこと」の領域において、基礎的・基本的な知識や能力を活用できるかどうかをみる問題。 (例) ■目的や場面に応じ、構成を工夫して話すことができる。 ■目的や場面に応じ、話し手の意図を考えながら聞くことができる。

学習状況調査の結果概要

分類・観点・領域		全体	階層別			
		平均正答率(%)	A層	B層	C層	D層
分類	A B全体	59.6	83.5	62.2	40.2	18.0
	A 知識	62.3	85.1	65.0	44.1	20.8
	B 活用	48.6	76.9	51.0	24.6	7.0
観点	読む能力	65.2	86.8	68.8	45.7	20.8
	言語についての	58.6	81.3	59.6	40.4	20.6
	書く能力	47.2	77.8	48.6	21.1	2.3
	話す能力	52.9	81.7	53.2	28.9	13.6
	聞く能力	38.6	71.1	38.6	10.2	2.3
領域	読むこと	65.2	86.8	68.8	45.7	20.8
	伝統的な言語文化と国語の特質	58.6	81.3	59.6	40.4	20.6
	書くこと	47.2	77.8	48.6	21.1	2.3
	話すこと	52.9	81.7	53.2	28.9	13.6
	聞くこと	38.6	71.1	38.6	10.2	2.3

設問別正答率（％）

結果概要

学習定着状況

◇「分類A」＝「知識」に関する問題、「分類B」＝「活用」に関する問題

問題番号			出題内容	領域	観点	分類	全体	階層別				A層-D層	児童生徒 の無解答 の割合(%)
通し 番号	大問	小問						A層	B層	C層	D層		
1	1	1	内容の把握	読むこと	読む能力	A	35.6	69.7	32.7	9.5	2.3	67.4	3.0
2	1	2	内容の把握	読むこと	読む能力	A	84.8	96.1	90.6	72.8	44.3	51.8	0.2
3	1	3	内容の把握	読むこと	読む能力	A	82.6	95.5	86.1	73.5	39.8	55.7	0.3
4	1	4	内容の把握	読むこと	読む能力	A	93.0	99.4	97.0	87.4	60.2	39.2	0.1
5	1	5	内容の把握	読むこと	読む能力	A	88.4	99.4	95.9	77.9	31.8	67.6	3.2
6	2	1	文脈の把握・語句の理解	読むこと	読む能力	A	72.9	91.0	75.8	57.1	35.2	55.8	0.3
7	2	2	内容の把握	読むこと	読む能力	A	45.6	78.7	47.7	15.0	1.1	77.6	4.2
8	2	3	内容の把握	読むこと	読む能力	A	67.6	94.7	75.2	40.1	3.4	91.3	6.2
9	2	4	内容の把握	読むこと	読む能力	A	61.2	84.3	66.9	37.4	12.5	71.8	3.5
10	2	5	内容・要旨の把握	読むこと	読む能力	A	42.9	72.2	43.8	17.0	5.7	66.5	10.4
11	3	1-(1)	漢字の読み	伝統的な言語文化と国語の特質	言語についての知識・理解・技能	A	59.0	87.1	60.6	35.4	14.8	72.3	1.9
12	3	1-(2)	漢字の読み	伝統的な言語文化と国語の特質	言語についての知識・理解・技能	A	82.5	97.5	90.4	63.6	36.4	61.1	1.3
13	3	2-(1)	漢字の書き	伝統的な言語文化と国語の特質	言語についての知識・理解・技能	A	78.5	96.9	82.3	63.3	31.8	65.1	2.8
14	3	2-(2)	漢字の書き	伝統的な言語文化と国語の特質	言語についての知識・理解・技能	A	24.9	50.0	20.7	9.2	2.3	47.7	11.4
15	3	3-(1)	文の組み立て	伝統的な言語文化と国語の特質	言語についての知識・理解・技能	A	46.7	71.3	45.1	30.6	10.2	61.1	1.6
16	3	3-(2)	文の成分	伝統的な言語文化と国語の特質	言語についての知識・理解・技能	A	39.8	68.3	34.9	22.4	12.5	55.8	1.6
17	3	4-(1)	書写・辞典の引き方	伝統的な言語文化と国語の特質	言語についての知識・理解・技能	A	37.5	67.4	35.9	14.3	3.4	64.0	14.7
18	3	4-(2)	書写・辞典の引き方	伝統的な言語文化と国語の特質	言語についての知識・理解・技能	A	70.5	90.2	73.2	54.8	27.3	62.9	2.0
19	3	5-(1)	歴史的仮名遣い	伝統的な言語文化と国語の特質	言語についての知識・理解・技能	A	82.4	96.6	86.3	69.7	43.2	53.4	3.0
20	3	5-(2)	歴史的仮名遣い	伝統的な言語文化と国語の特質	言語についての知識・理解・技能	A	63.9	88.2	67.1	40.5	23.9	64.3	7.3
21	1	1	情報の読み取り	読むこと	読む能力	B	47.7	73.3	49.0	26.2	8.0	65.3	4.8
22	1	2	情報の読み取り	読むこと	読む能力	B	59.7	87.4	64.3	34.0	5.7	81.7	6.6
23	1	3	情報の活用	書くこと	書く能力	B	47.2	77.8	48.6	21.1	2.3	75.5	11.3
24	2	1	情報の読み取り	話すこと	話す能力	B	52.9	81.7	53.2	28.9	13.6	68.1	2.6
25	2	2	情報の活用	聞くこと	聞く能力	B	38.6	71.1	38.6	10.2	2.3	68.8	18.6

特徴の見られた問題例 1

1 調査問題の趣旨

文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる問題である。
 ※ A問題の中で、平均正答率が最も低かった問題である。

2 学習指導要領との関連

第1学年 [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]
 (1) ウ 漢字に関する事項
 (イ) 学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うこと。

3 問題

☐ 問二

次の(1)、(2)の――線のひらがなを、漢字に直して書きなさい。ただし、必要なものには、送りがなをつけること。

(2) 「必ず勝つ」という思いで試合にのぞむ。

※ (1)は省略

正答	臨む	平均正答率	24.9	無解答率	11.4
----	----	-------	------	------	------

【類似問題】

平成26年度 ☐ 問二(2)	平均正答率	23.8	無解答率	5.4
----------------	-------	------	------	-----

4 改善のポイント

☆ **考察**
 漢字に関する事項については、漢字を書くこと、特に同訓異義や同音の漢字を使い分ける問題についての平均正答率が低く、指導の工夫が必要である。

☆ **授業の改善に向けて**

漢字の指導に当たっては、正確に読み書きできるようにする。さらに、文脈の中で適切に使えるようにするとともに、定着しにくい漢字や間違いやすい漢字について、意識をもって読み書きできるように指導することが大切である。



中学校における漢字の書きの指導では、学年別漢字配当表に示している1,006字の漢字(小学校で学習する漢字)を、文や文章の中で使い慣れるように指導しましょう。

同訓異義の漢字の使い分けについて学習する場合の指導例

試合にのぞむ ・「臨む」「望む」のどちらの漢字を使えばよいのかが分からない場合には、それぞれの漢字を使った二字の熟語を想起させ、熟語の意味について考えさせる。

臨 → 【臨席】(会に出ること) 【臨海】(海の近くにあること)

望 → 【眺望】(見渡した眺め) 【願望】(願い望むこと)

◆ 定着のために「のぞむ」を使った文例を示し、漢字に書き改めさせる。

・遠くの山をのぞむ ・海にのぞむ建物 ・始業式にのぞむ ・平和をのぞむ

特徴の見られた問題例 2

1 調査問題の趣旨

文章の構成や展開に即して、登場人物の心情をとらえることができるかどうかをみる問題である。
 ※ A問題の中で、過去の類似問題と比較して、平均正答率が上がった問題である。

2 学習指導要領との関連

第1学年 「読むこと」
 (1) ウ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。

3 問題

椎名誠作「続岳物語」の一部
 を読んで答える問題

問四

文章中に――線④「……」とありますが、この部分に込められた私の気持ちを表す言葉として最も適当なものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア そうかもしれないな
 イ いや、ちがうな
 ウ そんなことがあるものか
 エ 何を言っているのかな

正答	ア
----	---

平均正答率	93.0	無解答率	0.1
-------	------	------	-----

【類似問題】
 平成26年度 問四

平均正答率	35.7	無解答率	4.4
-------	------	------	-----

4 改善のポイント

☆ 考察
 過去の類似問題と比較して、平均正答率が大幅に上がっている。しかし、読み取った登場人物の心情を選択式ではなく、記述式で答えるような場合には、平均正答率が低くなる傾向があるので、指導の工夫が必要である。

☆ 授業の改善に向けて

文学的な文章を読む際には、登場人物の言動を表す描写に着目し、他の叙述や場面の展開を根拠としながら、言動に込められた心情に対する考えを述べ合うことができるように指導することが大切である。



音読や朗読を取り入れた学習活動や、物語の中で重要だと思われる言動を引用して作品を紹介するなど、学習活動の工夫を行いましょう。

物語の一場面を工夫して朗読する場合の指導例

- ・朗読CDを聞き、プロの読み手の工夫やその効果を確認する。
- ・朗読したい場面を一つ選び、表現の特徴や登場人物の心情や行動などをとらえて、どのように朗読するのかを考える。その際、朗読の仕方の工夫とその理由を付箋紙に記入し、教科書の該当箇所貼る。
- ・二人一組で、選んだ場面の朗読を聞き合い、朗読の仕方の工夫とその理由を交流する。
- ・各場面から選ばれた代表者で全編を朗読し、気付いたことを述べ合う。

2 中学校2年：社会

調査問題の趣旨・内容

知識・理解	地理的・歴史的事象に関する基礎的・基本的な知識が身に付いているかどうかをみる問題。 (例) ■北方領土の事例から、日本の国境について理解している。
思考・判断・表現	様々な資料を活用して、事象を多面的・多角的に考察し、公正に判断するとともに、適切に表現することができるかどうかをみる問題。 (例) ■幕府が御恩の確保のために調査を行ったことを、資料を参考に判断し、表現することができる。
資料活用	地理的・歴史的事象に関する諸資料から、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用することができるかどうかをみる問題。 (例) ■複数の雨温図を比較し、それらが同じ地中海性気候であることを読み取ることができる。

学習状況調査の結果概要

分類・観点・領域		全体	階層別			
		平均正答率 (%)	A層	B層	C層	D層
分類	A B全体	53.8	83.0	62.0	39.0	16.7
	A 知識	59.6	87.9	68.9	44.8	19.8
	B 活用	30.8	63.4	34.3	15.9	4.1
観点	知識・理解	61.8	89.7	72.9	45.9	18.7
	思考・判断・表現	50.5	77.7	57.1	36.8	18.8
	資料活用	36.7	75.3	42.2	17.3	5.3
領域	世界のすがた	61.3	95.8	74.4	41.5	10.9
	日本のすがた	45.0	69.4	50.7	31.9	19.6
	世界各地の人々の生活と環境	60.8	90.0	63.8	46.7	39.1
	世界から見た日本のすがた	50.3	74.4	58.7	37.4	14.2
	世界の諸地域	58.1	88.1	67.5	41.6	19.3
	古代までの日本	70.9	94.8	80.6	58.4	29.8
	中世の日本	31.7	69.7	37.3	12.0	1.2
	近世の日本	44.7	81.3	54.2	23.7	6.3
世界のさまざまな地域の調査	53.8	85.4	62.2	39.7	8.7	

設問別正答率（％）

結果概要

学習定着状況

◇「分類A」＝「知識」に関する問題、「分類B」＝「活用」に関する問題

問題番号			出題内容	領域	観点	分類	全体	階層別				A層-D層	児童生徒の無解答の割合(%)
通し番号	大問	小問						A層	B層	C層	D層		
1	1	1	大陸・大洋の分布	世界のすがた	知識・理解	A	61.3	95.8	74.4	41.5	10.9	84.9	0.4
2	1	2	日本の領域	日本のすがた	知識・理解	A	42.2	57.9	41.7	35.9	34.8	23.1	0.4
3	1	3	時差	日本のすがた	知識・理解	A	47.9	80.8	59.8	27.9	4.3	76.5	4.7
4	1	4	宗教の分布	世界各地の人々の生活と環境	思考・判断・表現	A	60.8	90.0	63.8	46.7	39.1	50.9	0.2
5	1	5	日本のさまざまな地形	世界から見た日本のすがた	思考・判断・表現	A	48.4	79.6	57.1	28.7	18.8	60.8	0.5
6	1	6(1)	世界の気候	世界の諸地域	資料活用	A	34.8	74.2	39.0	15.6	5.1	69.1	12.5
7	1	6(2)	地球上の位置	世界の諸地域	知識・理解	A	64.1	91.7	74.2	50.5	18.8	72.9	0.4
8	1	6(3)	オセアニア州	世界の諸地域	思考・判断・表現	A	75.6	98.3	89.4	58.7	34.1	64.2	0.7
9	1	7	日本の人口問題	世界から見た日本のすがた	知識・理解	A	77.7	99.6	89.2	68.7	23.9	75.7	0.8
10	1	8	日本の交通	世界から見た日本のすがた	思考・判断・表現	A	68.6	93.8	81.7	53.6	20.3	73.5	2.4
11	2	1	中国文明	古代までの日本	知識・理解	A	56.6	88.8	69.7	36.9	9.4	79.4	0.5
12	2	2	稲作の広まり	古代までの日本	思考・判断・表現	A	88.1	99.6	94.7	86.4	49.3	50.3	1.4
13	2	3(1)	聖徳太子の政治	古代までの日本	知識・理解	A	73.3	98.8	85.8	59.5	23.2	75.6	13.7
14	2	3(2)	聖武天皇の政治	古代までの日本	知識・理解	A	54.1	92.5	65.9	32.1	8.0	84.5	10.8
15	2	3(3)	摂関政治	古代までの日本	知識・理解	A	90.2	99.2	96.5	86.9	61.6	37.6	1.1
16	2	3(4)	古代までの日本	古代までの日本	思考・判断・表現	A	62.9	90.0	70.9	48.5	27.5	62.5	1.4
17	2	4	豊臣秀吉の事業	中世の日本	知識・理解	A	53.8	90.0	69.3	30.0	2.9	87.1	13.5
18	2	5	大名の統制	近世の日本	資料活用	A	49.9	91.7	63.4	23.3	4.3	87.4	4.8
19	2	6	鎖国	近世の日本	知識・理解	A	58.5	92.1	75.0	34.9	8.0	84.1	8.9
20	2	7	桃山文化	近世の日本	資料活用	A	25.6	60.0	24.2	12.8	6.5	53.5	1.7
21	1		タイ	世界のさまざまな地域の調査	思考・判断・表現	B	53.8	85.4	62.2	39.7	8.7	76.7	4.2
22	2	1	日本の地形と気候の特色	世界から見た日本のすがた	思考・判断・表現	B	8.8	25.8	8.5	1.5	0.7	25.1	8.8
23	2	2	自然災害と防災への努力	世界から見た日本のすがた	思考・判断・表現	B	47.8	73.3	57.1	34.6	7.2	66.1	12.0
24	3	1	武士の主従関係	中世の日本	思考・判断・表現	B	25.7	73.3	27.0	3.6	0.7	72.6	30.6
25	3	2	御家人制度を基礎とする鎌倉幕府	中世の日本	思考・判断・表現	B	15.5	45.8	15.4	2.3	0.0	45.8	29.6

特徴の見られた問題例 1

1 調査問題の趣旨

「世界の気候」において、ローマとパースの雨温図を比較し、同じ地中海性気候であることを読み取ることができることをねらいとしている問題である。
 ※ A問題の地理的分野の中で、平均正答率が最も低かった問題である。

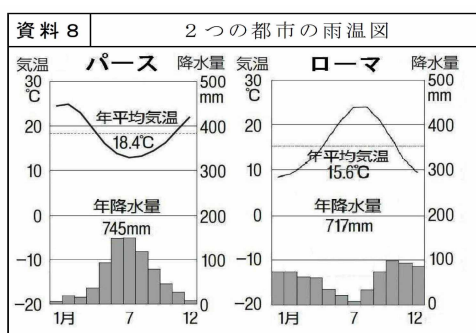
2 学習指導要領との関連

第1学年 地理的分野(1) イ 世界各地の人々の生活と環境

3 問題

6 オーストラリアについて調べた資料をもとに、後の(1)～(3)の問いに答えなさい。

(1) 資料8は、オーストラリアのパースとイタリアのローマにおける雨温図である。2つの都市の気候について、資料8を参考にわかったことを書いた。わかったことの に入る適切な語を答えなさい。



(「理科年表平成23年」より作成)

わかったこと

パースとローマの2つの都市は温暖な場所に位置している。気温が高くなるにつれて降水量が少なくなるといった同じ変化がみられる。この2つの都市は、温帯の 気候に属している。

正 答 地中海性

平均正答率

34.8

無解答率

12.5

【類似問題】

平成26年度 4

平均正答率

37.7

無解答率

0.5

4 改善のポイント問題

☆ 考察

昨年度の類似問題と比較して、A層からD層までのすべての層で平均正答率が下がっており、特にC～D層においては10%以上も下がっており、指導の工夫が必要である。

☆ 授業の改善に向けて

・ 衣食住など人々の生活や環境との関わりを、雨温図などのグラフや主題図と結び付ける学習活動に取り組む必要がある。

《問題解決的な学習過程の工夫》

学習問題の設定

温帯で気候の違う2つの都市の住居の写真を準備し、違いを発表させる。
 「なぜ、同じ温帯で家の窓の大きさが違うのだろうか？」



資料の提示

資料の活用(雨温図)によって予想する。
 手立ての必要な生徒に資料の見方を支援する。



話し合い活動で資料を使って自分の意見を述べ合う

他の気候帯はどのような住居か、雨温図から予想して、確認する。

特徴の見られた問題例 2

1 調査問題の趣旨
藤原氏が行った摂関政治の土台づくりについて理解しているかどうかをみる問題である。
※ 昨年度の類似問題と比較して、平均正答率が大幅に上がった問題である。

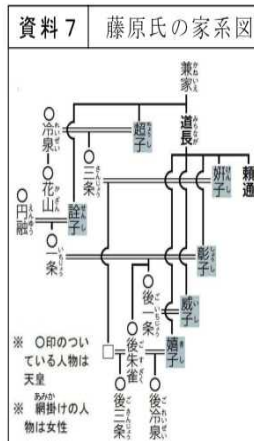
2 学習指導要領との関連
第1学年 歴史的分野(2) イ 古代までの日本(飛鳥、奈良、平安時代)

3 問題

23 古代の日本において活躍した歴史上の人物について、資料5のようにまとめた。下の(1)~(4)の問いに答えなさい。

(3) 資料7を参考にして、資料5の **C** に入る適切な内容を、次のア~エから1つ選び、記号で答えなさい。

ア 敵対していた貴族の養子にして、勢力を広げた
イ 政治の重要な役職に置き、政治の手助けをさせた
ウ 天皇のきさきにし、その子を次の天皇に立てた
エ 天皇にし、自分が天皇の補佐役についた



平安時代：藤原道長

○貴族でありながら、摂政や太政大臣となって、政治の実権をにぎった。
○自分の娘を **C** 。
○息子の頼通の時代と合わせて、摂関政治の全盛時代を築いた。

正 答	ウ	平均正答率	90.2	無解答率	1.1
-----	---	-------	------	------	-----

【類似問題】 平成26年度	24	平均正答率	46.3	無解答率	2.9
------------------	----	-------	------	------	-----

4 改善のポイント問題

☆ 考察
昨年度の類似問題と比較して、平均正答率が大幅に上がっており、A層-D層の差も37.6%と縮まり、指導の改善がみられた。

☆ 系統性
小学校第6学年「貴族の生活」 ⇨ 中学校第1学年「摂関政治」
・ 小学校時に藤原氏の政治の進め方を学習している。

☆ 授業の改善に向けて
《問題解決的な学習過程の工夫》

学習問題の設定
生徒が疑問に感じるような資料を準備し、主体的に問題を解決しようとする状態にする。
「なぜ、藤原道長は、下の歌のように力を伸ばせたのだろうか？」
『この世をば わが世とぞ思う 望月の欠けたることも 無しと思えば』

↓

資料の提示
資料の活用(藤原氏の家系図)によって予想する。
手立ての必要な生徒に資料の見方を支援する。

↓

話し合い活動で資料を使って自分の意見を述べ合う

3 中学校2年：数学

調査問題の趣旨・内容

技能	<p>事象を文字式や方程式、グラフ、図形などで数学的に表現し処理することができるかどうかをみる問題。 (例) ■正・負の数の四則計算をする。方程式を解く。 ■比例のグラフをかく。回転体の体積を求める。</p>
知識・理解	<p>数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則などについて理解し、知識を身に付けているかどうかをみる問題。 (例) ■数の大小関係や一次方程式の解き方で移行の意味を理解する。 ■空間図形での2直線の位置関係や絶対値を理解する。</p>
見方や考え方	<p>事象を数学的にとらえ、論理的に考察し表現するなど、数学的な見方や考え方を身に付けているかどうかをみる問題。 (例) ■ヒストグラムから得られる資料の傾向を根拠に、理由を説明することができる。 ■根拠となる式を読み取り、作図の方法を見通すことができる。</p>

学習状況調査の結果概要

分類・観点・領域		全体	階層別			
		平均正答率(%)	A層	B層	C層	D層
分類	A B全体	51.8	84.8	61.8	38.3	17.2
	A 知識	57.2	89.4	68.6	44.2	20.4
	B 活用	29.8	66.3	34.4	14.7	4.6
観点	技能	55.4	87.0	66.5	41.2	17.1
	知識・理解	58.5	88.2	66.2	46.4	26.3
	見方や考え方	31.3	69.8	35.8	14.3	3.7
領域	数と式	69.5	94.5	81.8	60.2	28.1
	関数	49.4	90.2	64.7	26.5	7.6
	図形	39.2	78.7	44.0	22.3	9.3
	資料の活用	35.0	64.2	38.2	22.6	13.2

設問別正答率（％）

結果概要

学習定着状況

◇「分類A」＝「知識」に関する問題、「分類B」＝「活用」に関する問題

問題番号			出題内容	領域	観点	分類	全体	階層別				A層-D層	児童生徒 の無解答 の割合(%)
通し 番号	大問	小問						A層	B層	C層	D層		
1	1	(1)	負の数と負の数の加法	数と式	技能	A	92.4	99.3	97.4	93.8	69.7	29.6	0.1
2	1	(2)	負の数の累乗	数と式	技能	A	79.1	97.0	89.8	74.8	40.5	56.5	0.4
3	1	(3)	数の大小関係	数と式	知識・理解	A	62.9	94.4	76.7	49.6	17.4	77.0	0.5
4	1	(4)	絶対値	数と式	知識・理解	A	45.2	81.6	55.3	28.2	8.2	73.4	3.8
5	1	(5)	文字式と数量	数と式	技能	A	65.1	96.6	75.8	51.4	27.2	69.4	0.3
6	2	(1)	大小関係を表す式	数と式	技能	A	52.3	90.6	70.1	31.7	3.6	87.0	6.4
7	2	(2)	一次方程式の解き方	数と式	知識・理解	A	91.7	98.9	96.2	93.0	69.7	29.2	1.1
8	2	(3)	かっこがある式の計算	数と式	技能	A	78.3	97.4	90.5	78.1	26.7	70.7	3.0
9	2	(4)	等式の変形	数と式	技能	A	55.8	90.3	76.2	36.4	4.1	86.2	12.7
10	2	(5)	連立方程式の解き方	数と式	技能	A	72.4	98.9	90.3	64.8	13.3	85.6	7.7
11	3	(1)	比例の式	関数	技能	A	58.0	95.5	80.5	34.9	5.6	89.9	5.8
12	3	(2)	反比例	関数	知識・理解	A	46.0	83.5	55.3	24.4	19.0	64.5	1.7
13	3	(3)	比例のグラフ	関数	技能	A	43.5	89.1	55.1	20.4	3.1	86.0	10.0
14	3	(4)	反比例のグラフ	関数	技能	A	50.0	92.5	67.7	26.2	2.6	89.9	7.8
15	4	(1)	点対称移動	図形	知識・理解	A	66.2	94.4	75.1	57.1	27.2	67.2	1.1
16	4	(2)	おうぎ形の中心角	図形	技能	A	28.0	79.0	30.6	4.0	1.5	77.5	14.6
17	5	(1)	空間内の2直線の位置関係	図形	知識・理解	A	39.1	76.4	38.2	26.2	16.4	60.0	1.6
18	5	(2)	回転体の体積	図形	技能	A	35.5	78.3	40.1	16.2	6.7	71.6	14.3
19	6	(1)	度数分布表	資料の活用	技能	A	75.5	94.8	82.7	71.8	41.5	53.3	1.9
20	6	(2)	代表値と散らばり	資料の活用	技能	A	21.3	53.9	25.2	5.0	2.1	51.8	16.4
21	1	(1)	代表値と散らばり	資料の活用	技能	B	23.4	52.1	25.9	9.2	7.7	44.4	6.6
22	1	(2)	ヒストグラムの活用	資料の活用	見方や考え方	B	19.6	56.2	19.2	4.5	1.5	54.7	26.6
23	2	(1)	基本的な作図の活用	図形	見方や考え方	B	56.1	89.5	71.0	39.4	12.3	77.2	5.6
24	2	(2)	基本的な作図の活用	図形	見方や考え方	B	30.7	81.6	33.0	8.7	1.0	80.6	9.0
25	2	(3)	基本的な作図の活用	図形	見方や考え方	B	18.7	51.7	20.0	4.5	0.0	51.7	23.9

特徴の見られた問題例 1

1 調査問題の趣旨

出題内容「おうぎ形の中心角」において、おうぎ形の半径と弧の長さから中心角の大きさを求めることができるかを問う問題である。

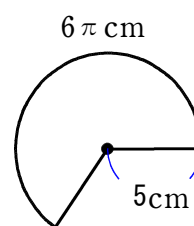
※ 図形の領域において、平均正答率が最も低く、A層-D層の差が大きかった問題である。

2 学習指導要領との関連

第1学年 図形 (2) ウ 扇形の弧の長さとの面積

3 問題

4 (2) 次の図のように、半径5cm、弧の長さ 6π cmのおうぎ形があります。このおうぎ形の中心角の大きさを求めなさい。



正答	216度
----	------

平均正答率	28.0	無解答率	14.6
-------	------	------	------

【類似問題】

平成26年度 4(3)

平均正答率	50.8	無解答率	13.7
-------	------	------	------

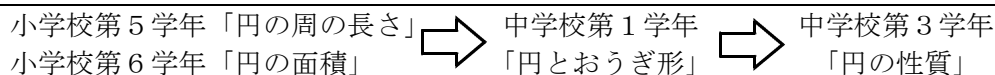
4 改善のポイント

★ 考察

過去の類似問題では、おうぎ形の面積や弧の長さを求めることは平均正答率が高い。今回、弧の長さから中心角を求めることに課題がみられた。特にB層からD層までの平均正答率が低い。また、無解答率が高い問題であり、指導の工夫が必要である。

★ 系統性

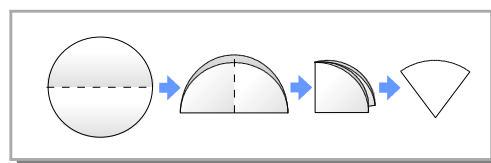
小学校算数科では円の周の長さや円の面積の求め方について学習している。中学校数学科では、まず、それらの学習を振り返り学び直す必要がある。



★ 授業の改善に向けて

・ おうぎ形についての理解をさらに深めるような数学的活動の設定

円を紙で作って折ったり切ったりする活動において、観察、操作や実験を通して、円とおうぎ形を関連付け、おうぎ形の弧の長さや面積とその中心角の大きさの関係を捉えさせる指導が必要である。



右図のような活動により、「円とおうぎ形の性質・計量」の理解が一層深まります!

特徴の見られた問題例 2

1 調査問題の趣旨

出題内容「大小関係を表す式」において、数量の大小関係を不等式に表すことができるかどうかをみる問題である。

※ 過去の類似問題と比較して、平均正答率が上がった問題である。

2 学習指導要領との関連

第1学年 数と式 (2)

エ 数量の関係法則などを文字を用いた式に表すことができることを理解し、式を用いて表したり読み取ったりすること。

3 問題

2 (1) 1個40 gの品物 x 個を、重さ y gの箱に入れ、全体の重さが1500 g以下になるようにします。このとき、数量の関係を不等式で表しなさい。

正答	$40x + y \leq 1500$	平均正答率	52.3	無解答率	6.4
----	---------------------	-------	------	------	-----

【類似問題】

平成25年度 1 (7)

平均正答率	44.3	無解答率	3.3
-------	------	------	-----

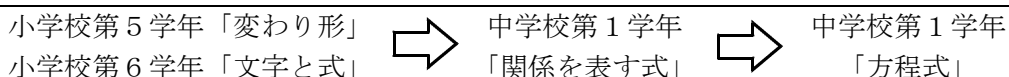
4 改善のポイント

★ 考察

過去の類似問題と比較して、平均正答率が上がり、改善がみられた問題である。しかし、A層－D層の差が8.7%と大きな開きがあり、理解において個人差が大きい状況である。また、無回答率が6.4%と高く、理解が十分でない生徒に対する指導の工夫が必要である。

★ 系統性

数量の関係や法則を読み取ることは、一次方程式の学習と深く結びついている。



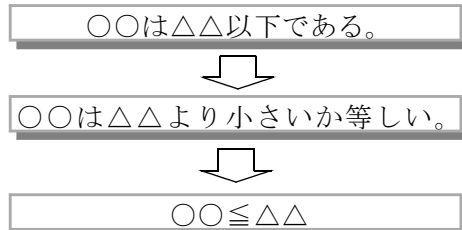
★ 授業の改善に向けて

・ 「わたこさんのカギ」の活用

- 「わ」…わかっていること
- 「た」…尋ねられていること
- 「こ」…答えの単位
- 「カギ」…何算かの『キーワード』

小学校の指導を活かす！

・ 不等号の捉え方が十分でない生徒へ



4 中学校2年：理科
調査問題の趣旨・内容

知識・理解	<p>自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識が身に付いているかどうかをみる問題。 (例) ■道管と師管が束になった部分の名称を理解している。 ■音の大きさや高さは、音源の振幅や振動数に関係していることを理解している。</p>
思考・表現	<p>自然の事物・現象による事象や結果を分析して解釈し、表現することができるかどうかをみる問題。 (例) ■実験の条件設定について説明することができる。 ■表の情報をもとに、物質Xの結晶をとり出す方法を判断するとともに、判断した理由を説明することができる。</p>
観察・実験の技能	<p>観察・実験の技能が身に付いているかどうか、観察・実験の過程や結果を的確に記録し、整理できるかどうかをみる問題。 (例) ■ルーペの正しい使い方を理解している。 ■メスシリンダーの目盛りの読み方を理解し、測定値を指摘できる。</p>

学習状況調査の結果概要

分類・観点・領域		全体	階層別			
		平均正答率(%)	A層	B層	C層	D層
分類	A B全体	49.0	83.7	61.0	38.3	17.3
	A 知識	53.7	87.4	66.4	43.2	20.5
	B 活用	30.4	69.1	39.1	18.5	4.6
観点	知識・理解	56.6	90.5	70.5	47.1	18.6
	思考・表現	39.9	76.9	48.8	28.8	14.4
	観察・実験の技能	59.1	93.1	76.0	47.5	20.0
領域	生物的領域	60.8	87.1	72.5	54.1	28.1
	物理的領域	29.9	75.1	39.8	15.1	3.8
	地学的領域	49.0	88.8	61.2	37.6	14.4
	化学的領域	48.4	84.0	61.2	37.5	14.6

設問別正答率(%)

結果概要

学習定着状況

◇「分類A」＝「知識」に関する問題、「分類B」＝「活用」に関する問題

問題番号			出題内容	領域	観点	分類	全体	階層別				A層-D層	児童生徒の無解答の割合(%)
通し番号	大問	小問						A層	B層	C層	D層		
1	1	1(1)	花のつくりとはたらき	生物的領域	観察・実験の技能	A	67.5	94.2	79.3	61.2	32.6	61.6	0.1
2	1	1(2)	花のつくりとはたらき	生物的領域	知識・理解	A	91.1	100.0	98.8	92.9	61.6	38.4	2.5
3	1	1(3)	花のつくりとはたらき	生物的領域	知識・理解	A	49.5	89.0	67.9	35.8	6.8	82.2	2.7
4	1	2(1)	茎の特徴	生物的領域	思考・表現	A	74.9	96.0	84.6	70.9	44.7	51.3	0.3
5	1	2(2)	茎の特徴	生物的領域	知識・理解	A	88.7	98.8	96.9	91.0	55.3	43.5	3.2
6	2	1(1)	はじく弦の長さや音の関係	物理的領域	思考・表現	A	32.9	78.6	45.1	16.6	5.3	73.3	0.6
7	2	1(2)	音の大きさや高さや弦の振動の関係	物理的領域	知識・理解	A	37.0	89.0	53.7	17.2	2.6	86.4	3.9
8	2	2(1)	力の大きさ	物理的領域	知識・理解	A	55.3	99.4	77.2	38.2	9.5	89.9	5.9
9	2	2(2)	圧力	物理的領域	知識・理解	A	12.8	57.8	12.6	1.7	0.0	57.8	15.1
10	2	2(3)	質量と重さ	物理的領域	思考・表現	A	11.3	50.9	10.5	1.7	1.6	49.3	16.3
11	3	1(1)	火成岩のつくり	地学的領域	知識・理解	A	55.2	94.2	74.1	43.2	7.9	86.3	9.9
12	3	1(2)	火成岩のでき方	地学的領域	思考・表現	A	67.3	95.4	76.0	59.3	42.6	52.8	2.3
13	3	1(3)	火成岩の種類	地学的領域	思考・表現	A	25.5	69.4	27.1	14.3	10.0	59.4	2.1
14	3	2(1)	地層から分かる大地の変化	地学的領域	知識・理解	A	45.6	92.5	62.5	29.8	5.3	87.2	16.3
15	3	2(2)	地層から発見される化石	地学的領域	知識・理解	A	51.5	92.5	66.5	41.5	6.3	86.2	12.8
16	4	1(1)	物質の区別	化学的領域	知識・理解	A	51.7	82.7	69.6	42.6	6.8	75.9	9.0
17	4	1(2)	メスシリンダーの使い方	化学的領域	観察・実験の技能	A	50.8	91.9	72.7	33.8	7.4	84.5	1.0
18	4	1(3)	物質の密度	化学的領域	思考・表現	A	54.0	94.8	69.1	39.2	20.5	74.3	3.7
19	4	2(1)	物質の化合	化学的領域	思考・表現	A	63.3	94.2	80.3	53.2	22.6	71.6	1.7
20	4	2(2)	物質の化合	化学的領域	知識・理解	A	84.1	99.4	96.2	84.5	42.6	56.8	3.9
21	1	1	葉のつくりとはたらき	生物的領域	思考・表現	B	29.1	69.4	38.7	15.7	4.7	64.7	11.5
22	1	2	葉のつくりとはたらき	生物的領域	思考・表現	B	56.1	93.6	72.4	45.1	13.7	79.9	14.4
23	1	3	葉のつくりとはたらき	生物的領域	思考・表現	B	29.8	56.1	41.1	20.1	5.3	50.8	12.9
24	2	1	質量パーセント濃度	化学的領域	思考・表現	B	12.4	46.2	14.5	2.7	1.1	45.1	33.8
25	2	2	溶解度	化学的領域	思考・表現	B	22.2	78.6	26.1	6.7	1.1	77.5	12.5

特徴の見られた問題例 1

1 調査問題の趣旨

火成岩の種類の違いによる組織の違いを理解しているかどうかをみる問題と火成岩のつくりを理解し、該当する火成岩の種類を指摘できるかどうかをみる問題である。
 ※ 過去の類似問題と比べ平均正答率は上がっているが、A層-D層の差が大きかった問題である。

2 学習指導要領との関連

第2分野(2) 大地の成り立ちと変化 イ 火山と地震 (ア) 火山活動と火成岩

3 問題

3 1 (1) 図1, 2は、火成岩を薄片にして偏光顕微鏡で観察し、記録したものです。図1のような岩石のつくりを何組織といいますか。

(3) 図1, 2のようなつくりをもつ火成岩の組み合わせとして適切なものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

ア	図1 - 花こう岩	図2 - 斑れい岩
イ	図1 - せん緑岩	図2 - 玄武岩
ウ	図1 - 安山岩	図2 - せん緑岩
エ	図1 - 玄武岩	図2 - 流紋岩



(1)	正答	等粒状組織
(3)	正答	イ

平均正答率	55.2	無解答率	9.9
平均正答率	25.5	無解答率	2.1

【類似問題】

平成26年度 3 1

平均正答率	17.8	無解答率	4.0
-------	------	------	-----

4 改善のポイント

☆ 考察
 (1)は、過去の類似問題と比べて、平均正答率が上がっている。しかし、A層-D層の差が大きい。(3)は、正答率が低く、定着が不十分である。(1)と(3)を合わせて、しっかり身に付けさせる必要がある。

☆ 授業改善に向けて

- 身近な地域の素材を活用する
 生徒が火成岩を身近に感じることができるよう、宮崎県内各地にある、身近な素材を活用しながら学習を進めることが大切です。

<身近な素材の例>

- 大崩山や市房山、木城町等の花こう岩
- 霧島山の安山岩 など

※ まだまだ使えそうな事例はたくさんありますよ。
 【参考】 宮崎県総合博物館「みやざき地質ハンドブック」「宮崎の滝と地質ガイドブック」
 産総研 地質調査総合センターのWEBサイト

<こんな学習はどうですか？>

学習した内容をもとに、大崩山のでき方から、花こう岩が見られる理由を説明する活動。	霧島山に見られる火成岩(実物がよい)は何かを、岩石標本と比べながら判断する活動。	※ 濃いミョウバン等で行うモデル実験は、大変有効です。
--	--	-----------------------------

- 時には、語呂合わせも有効

(例) シン カン セン ハ カ リ ア ゲ だ
 (深成岩) (花こう岩) (せん緑岩) (斑れい岩) (火山岩) (流紋岩) (安山岩) (玄武岩)

特徴の見られた問題例 2

1 調査問題の趣旨

机の面から物体が受ける圧力の大きさを求めることができるかどうかをみる問題である。
 ※ 平均正答率が低く、無解答率が高かった問題である。

2 学習指導要領との関連

第1分野(1) 身近な物理現象 イ 力と圧力 (イ) 圧力

3 問題

2 図1のような直方体の形をした物体の質量を上皿てんびんではかると、図2で示したようにちょうどつり合いました。下の問いに答えなさい。ただし、地球上において100gの物体にはたらく重力の大きさを1Nとします。

図1

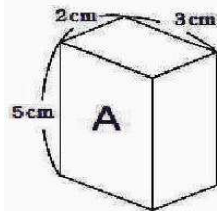
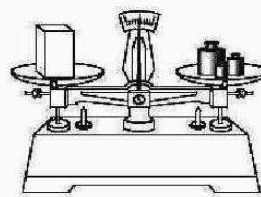


図2



のせた分銅
 200g 1個
 50g 1個
 20g 1個

(2) 図1の物体を、A面を下にして水平な机の上に置いたとき、机にはたらく圧力は何 N/m^2 になりますか。

正答	1800 N/m^2
----	--------------

平均正答率	12.8	無解答率	15.1
-------	------	------	------

【類似問題】

平成26年度 6 1

平均正答率	17.8	無解答率	4.0
-------	------	------	-----

4 改善のポイント

☆ 考察

平均正答率が低い問題である。上皿てんびんにのせた分銅から、物体にはたらく重力の大きさも読み取る必要があるため、無解答率が高かった。過去の類似問題では、圧力の概念をみる問題では平均正答率が高いが、圧力の計算問題では平均正答率が低い傾向がある。

☆ 授業改善に向けて

・ 圧力の計算をするのに必要なことを明らかにする

- ・ 圧力の概念が理解できる。
- ・ 圧力の公式の意味が理解できる。
- ・ 単位変換ができる。
- ・ 小数点を含んだ割り算ができる。

【参考】

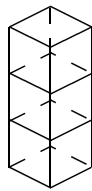
理科ねっとわーくWEBサイト
 「やってみよう！おもしろ実験力学編」
 NHKWEBサイト「大科学実験 実験11 卵の上に立つラクダ」

・ 数学とコラボレーション

圧力の計算問題は、数学の第1学年で学習する「比例・反比例」の学習に応用できます。単位変換や小数点を含んだ割り算の復習も兼ねて、数学の授業とコラボしてみてもどうですか？

- ・ 面積を一定にして、上に同じ物体を積み重ねていく場合(大気圧や水圧の考え方につながる)
 → 比例

※ 重さ1Nの物体を積み重ねる



底面積 1 cm^2

- ・ 力の大きさを一定にして、面積が変わる(同じ重さで、大きさが異なる物体)場合
 → 反比例

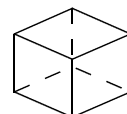
※ 物体の重さはすべて6N



底面積 1 cm^2



底面積 2 cm^2



底面積 3 cm^2

5 中学校2年：英語
調査問題の趣旨・内容

理 解	「聞くこと」「読むこと」の領域において、英語で話された内容や英語で書かれた文章の内容を正しく理解できるかどうかをみる問題。 (例) ■英語の問いかけに対して適切に応答する。 ■英語を聞いて、概要や要点を正確に把握する。 ■英文を読んで、概要や要点を正確に理解している。
表 現	英語が使われる実際の場面において、言語の働きを意識して、適切な内容で表現することができるかどうかをみる問題。 (例) ■与えられた場面に即して自分が伝えたい内容を考え、適切に表現する。 ■英文を読んで内容の詳細を理解し、自分の思いや考えを適切に表現する。
知識・理解	英語の基本的な語彙や文構造などの文法的な知識が定着しているかどうかをみる問題。 (例) ■動詞の現在形、不規則変化等の形を正確に理解している。

学習状況調査の結果概要

分類・観点・領域		全体	階層別			
		平均正答率 (%)	A層	B層	C層	D層
分類	A B全体	62.4	87.3	62.2	38.7	19.1
	A 知識	68.8	90.9	71.0	46.5	23.5
	B 活用	37.1	72.9	27.3	7.4	1.8
観点	理解	66.5	90.2	68.3	42.8	20.4
	表現	60.5	82.3	57.7	42.3	23.7
	知識・理解	42.0	74.0	38.3	11.4	2.0
領域	聞くこと	83.5	96.1	87.5	71.8	41.4
	書くこと	42.0	74.0	38.3	11.4	2.0
	読むこと	56.8	85.9	56.9	27.8	9.6
	読むこと書くこと	35.8	70.8	27.8	4.7	0.0

設問別正答率（％）

結果概要

学習定着状況

◇「分類A」＝「知識」に関する問題、「分類B」＝「活用」に関する問題

問題番号			出題内容	領域	観点	分類	全体	階層別				A層-D層	児童生徒の無解答の割合(%)
通し番号	大問	小問						A層	B層	C層	D層		
1	1	No.1	指示している内容の理解	聞くこと	理解	A	94.3	99.8	98.4	88.5	68.7	31.1	0.0
2	1	No.2	指示している内容の理解	聞くこと	理解	A	93.2	100.0	97.1	90.3	49.4	50.6	0.0
3	1	No.3	指示している内容の理解	聞くこと	理解	A	93.6	99.3	97.6	91.0	54.2	45.1	0.0
4	2	No.1	身近な暮らしに関わる会話表現の理解	聞くこと	理解	A	71.5	94.3	77.3	44.5	24.1	70.2	0.3
5	2	No.2	身近な暮らしに関わる会話表現の理解	聞くこと	理解	A	79.9	97.8	87.3	59.8	25.3	72.5	0.3
6	2	No.3	身近な暮らしに関わる会話表現の理解	聞くこと	理解	A	63.6	93.0	66.8	32.4	8.4	84.6	0.9
7	3	1	自己紹介における内容理解	聞くこと	表現	A	66.2	82.9	67.5	53.9	16.9	66.0	0.7
8	3	2	自己紹介における内容理解	聞くこと	表現	A	93.4	99.3	97.9	90.3	51.8	47.5	0.2
9	3	3	自己紹介における内容理解	聞くこと	表現	A	96.0	98.9	97.6	95.6	73.5	25.4	0.8
10	4	1	動詞の時制に関する知識・理解	書くこと	知識・理解	A	21.5	46.8	11.9	2.5	0.0	46.8	2.3
11	4	2	動詞の時制に関する知識・理解	書くこと	知識・理解	A	59.3	91.9	63.6	22.4	3.6	88.3	3.6
12	4	3	動詞の時制に関する知識・理解	書くこと	知識・理解	A	45.2	83.3	39.3	9.3	2.4	80.9	7.0
13	5	1(1)	言語の使用場面と表現の理解	読むこと	理解	A	59.3	88.1	60.7	28.7	13.3	74.8	0.2
14	5	1(2)	言語の使用場面と表現の理解	読むこと	理解	A	65.2	97.6	70.7	27.7	7.2	90.4	0.7
15	5	2(3)	言語の使用場面と表現の理解	読むこと	理解	A	52.0	74.9	49.9	31.2	16.9	58.0	0.7
16	6	1(1)	対話文の内容理解	読むこと	理解	A	56.2	83.7	53.0	31.5	15.7	68.0	0.9
17	6	1(2)	対話文の内容理解	読むこと	理解	A	62.9	93.8	63.3	30.8	15.7	78.1	1.1
18	6	1(3)	対話文の内容理解	読むこと	理解	A	51.9	85.3	49.9	19.3	3.6	81.7	3.6
19	6	2(1)	対話文の内容理解	読むこと	理解	A	79.6	99.8	91.8	55.1	7.2	92.6	6.1
20	6	2(2)	対話文の内容理解	読むこと	理解	A	66.1	95.4	72.8	29.9	14.5	80.9	0.9
21	1	1	身近な生活に関する表現	読むこと書くこと	表現	B	38.8	74.9	31.1	6.5	0.0	74.9	22.9
22	1	2	身近な生活に関する表現	読むこと書くこと	表現	B	44.3	82.9	40.1	5.9	0.0	82.9	20.1
23	2	1	まとまりのある英文の内容理解及び身近な出来事や体験に関する表現	読むこと書くこと	表現	B	24.2	54.7	12.1	1.6	0.0	54.7	31.2
24	2	2(ア)	まとまりのある英文の内容理解	読むこと	理解	B	42.4	69.5	38.0	19.6	2.4	67.1	8.0
25	2	2(イ)	まとまりのある英文の内容理解	読むこと	理解	B	32.7	70.8	18.5	4.0	0.0	70.8	11.6

特徴の見られた問題例 1

1 調査問題の趣旨

主語が3人称・単数・現在の一般動詞の語形を理解し、適切に書くことができるかどうかをみる問題である。
 ※ A問題の中で、最も平均正答率が低く、特にC層及びD層の平均正答率が低かった問題である。

2 学習指導要領との関連

第2節 2 内容 (3) 言語材料 エ 文法事項 (エ) 動詞の時制など

3 問題

4 次の1～3の日本語の内容に合うように、() に適切な英単語1語を入れて、英文を完成させなさい。

1 彼は、毎週野球の試合をテレビで見ます。
 He () baseball games on TV every week.

正答	watches	平均正答率	21.5	無解答率	2.3
----	---------	-------	------	------	-----

4 改善のポイント

☆ 考察

平均正答率がD層は0%、C層は2.5%である。一般動詞のwatchそのものを書けなかったり、主語が3人称・単数・現在のとき、語尾にs(es)を付けることを理解していなかったりすることが考えられる。特に、理解が十分でない生徒へのきめ細かな指導が必要であると考えられる。

☆ 授業改善に向けて

文法については、言語活動と効果的に関連付けて指導することが重要である。言語活動とは、「言語材料の理解と練習」と「自分の考えなどを伝えるコミュニケーション活動」であり、そのバランスが大切である。一人一人の生徒が確実に理解できるように指導し、練習で自信を付けさせ、コミュニケーション活動につなげることが大切である。

【新出言語材料の指導例】

耳から理解させる段階

- 新出言語材料の導入 (Oral Introduction)



口慣らしをさせる段階

- モデルをまねさせ、文を記憶させる (mim-mem)
- ドリル活動 (Pattern Practice)

理解の確認!



実際に使用させる段階

- コミュニケーション活動 (新しい情報の授受を目的とした活動)

定着を図る!

◆ 既習事項と比較したり、具体物や絵、写真等を使い、意味等を推測させる。

◆ 説明すべき点は説明する。(主語が3人称・単数・現在の一般動詞の肯定文は、英語の基本的な表現を学ぶ上で基礎となるものであり、その特徴を十分理解させる必要がある。さらに、本問題のように語尾がchで終わっているような単語は、esを付けることを確実に指導する。) 説明は、ドリル活動後でもよい。

◆ 絵や写真、ICTを活用しながら、パターンプラクティス等で慣れさせ、口頭で言う自信を付けさせる。

◆ 複数のパターンを通して、使用される場面を理解させる。
 ◆ 口頭ドリルの後、書かせる活動を行うことによって定着を図ることも必要。その際、一人一人を見届けることが重要。

◆ インフォメーションギャップ等、コミュニケーションを図る必然性のある学習活動を設定することが重要。

特徴の見られた問題例 2

1 調査問題の趣旨

対話文中の代名詞が指す内容を理解しているかどうかをみる問題である。
 ※ 昨年度の類似問題（代名詞）と比較して、大きく改善がみられたが、A層－D層の差が大きく、無解答率が高かった問題である。

2 学習指導要領との関連

第2節 2 内容 (3) 言語材料 エ 文法事項
 (ウ) 代名詞 a人称, 指示, 疑問, 数量を表すもの

3 問題

6 2 次の対話文は、給食の時間に、綾(Aya)さんと ALT のグリーン(Green)先生が、会話をしている時のものです。下の(1)、(2)の問いに答えなさい。

Aya : Do you like Japanese food, Mr. Green?
 Mr. Green : Yes. I like it very much. ① It is *healthy.
 Aya : Do you eat *natto?
 Mr. Green : I don't eat natto. Do you like it, Aya?
 Aya : Yes, I do. I have it every day.
 What is your favorite Japanese food?
 Mr. Green : I love *okonomiyaki.
 I made it last night.
 Aya : (②)

(注) *healthy 健康によい *natto 納豆 *okonomiyaki お好み焼き

(1) 下線部①は何を指しますか。対話文の中から抜き出し、英単語2語で書きなさい。

正答	Japanese food	平均正答率	79.6	無解答率	6.1
----	---------------	-------	------	------	-----

4 改善のポイント

☆ 考察

昨年度の類似問題（代名詞）と比較して、平均正答率が33.9%上がり、大きく改善がみられた問題である。しかし、A層－D層の差が92.6%と大きな開きがあり、理解において個人差が大きい状況である。また、無解答率が6.1%と高いことも課題である。理解が十分でない生徒へのきめ細かな指導が必要であると考えられる。

☆ 授業改善に向けて

代名詞の正しい活用には、授業の中で代名詞に着目して英文を読んだり、適切に代名詞を用いて文章を書いたりすることが大切である。

単一の文を理解したり書いたりする活動にとどまらず、複数の文を相互の意味のつながりに注意しながら理解したり書いたりする活動を通して、代名詞の確実な習得を図る必要がある。

具体的には、代名詞を意識して、いくつかの文を整序し、まとまった文章にする活動を手始めとして、適切に文章を構成する活動を授業の中で取り入れることが望ましい。

【授業実践アイデア例】

～時制や代名詞などに着目させ、文章を構成させる指導～

Yuiの1日のストーリーを組み立てよう!
 ～時間のながれや語のつながりから文章を組み立てる～

○次の文に基く文章を、①～⑦の文を並べ替えて組み立てよう。

Yui got up at 7:00 this morning. She had rice and miso soup for breakfast.

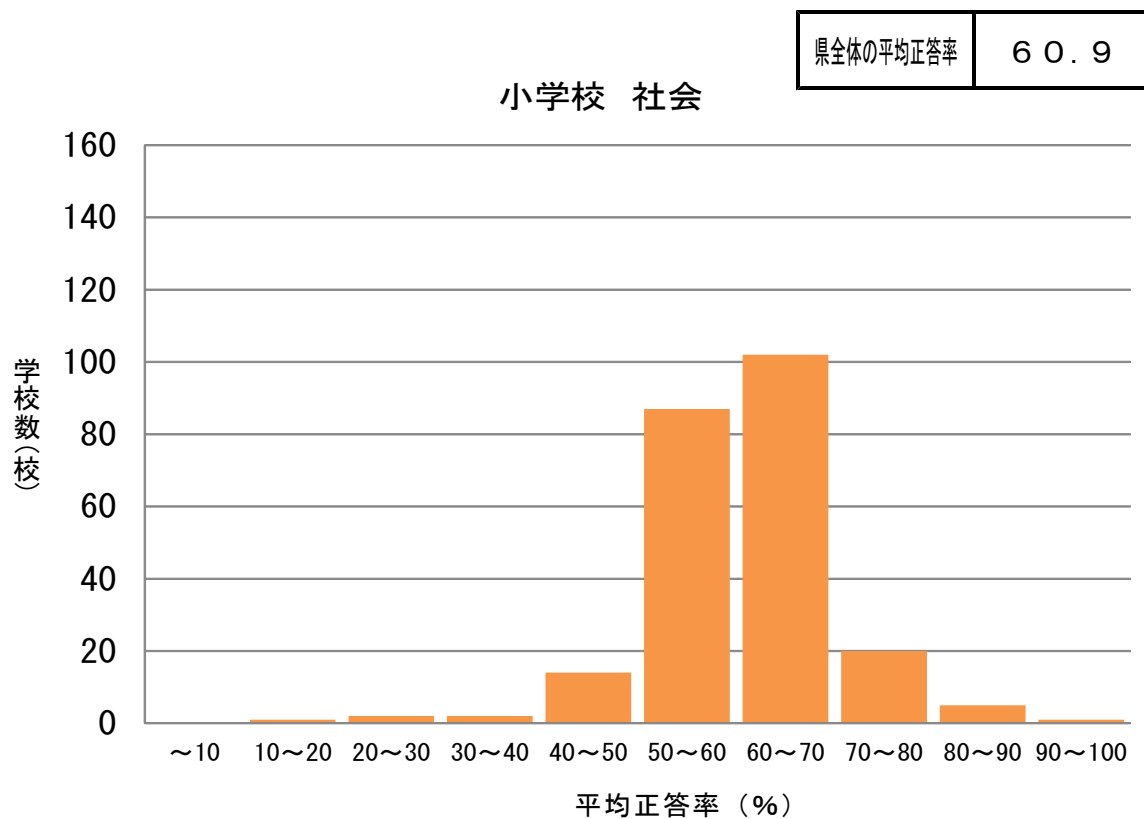
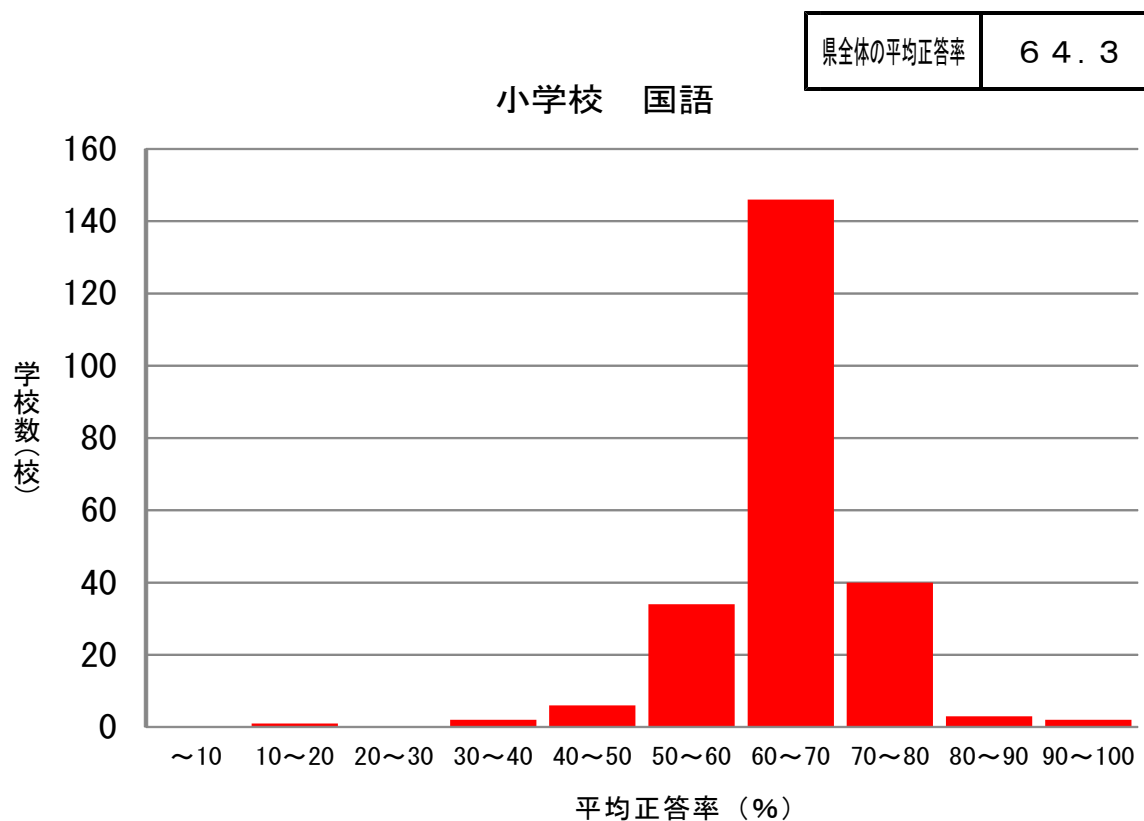
- ① She went to a restaurant for dinner with her family. ●
- ② She cleaned her room in the morning. ●
- ③ So she studied math very hard after dinner. ●
- ④ He played very well. ●
- ⑤ They ate a lot in the restaurant. ●
- ⑥ In the afternoon, she went to a park and played tennis with her friend Ken. ●
- ⑦ She will have a math test tomorrow. ●

《参考》「特定の課題に関する調査（英語：「書くこと」）調査結果（中学校）」より

Ⅱ-3 平均正答率の分布

1 小学校における平均正答率の分布

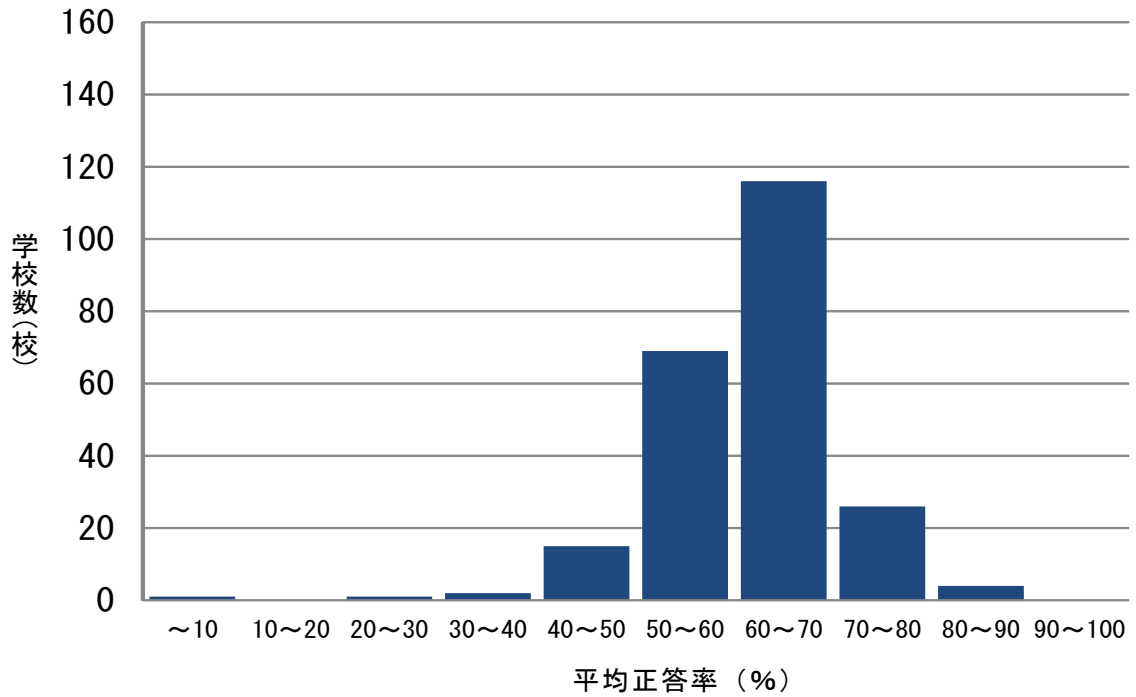
各教科の正答率分布グラフについて、縦軸は学校数、横軸は各学校における平均正答率を表示しています。(以上・未満)



小学校 算数

県全体の平均正答率

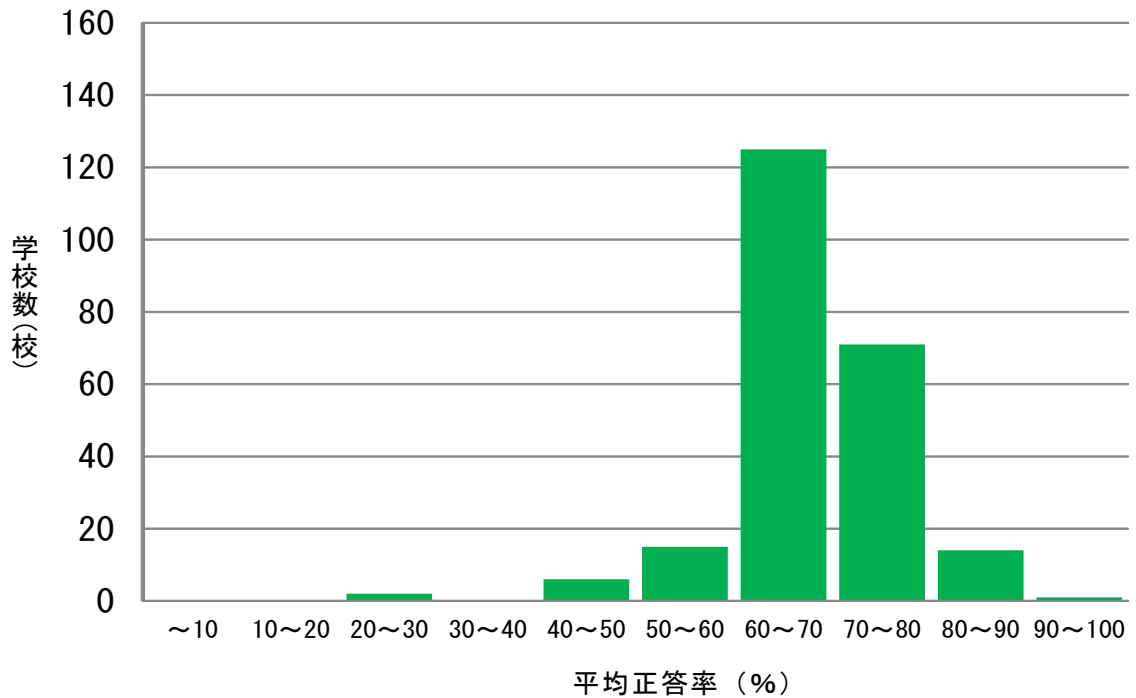
62.3



小学校 理科

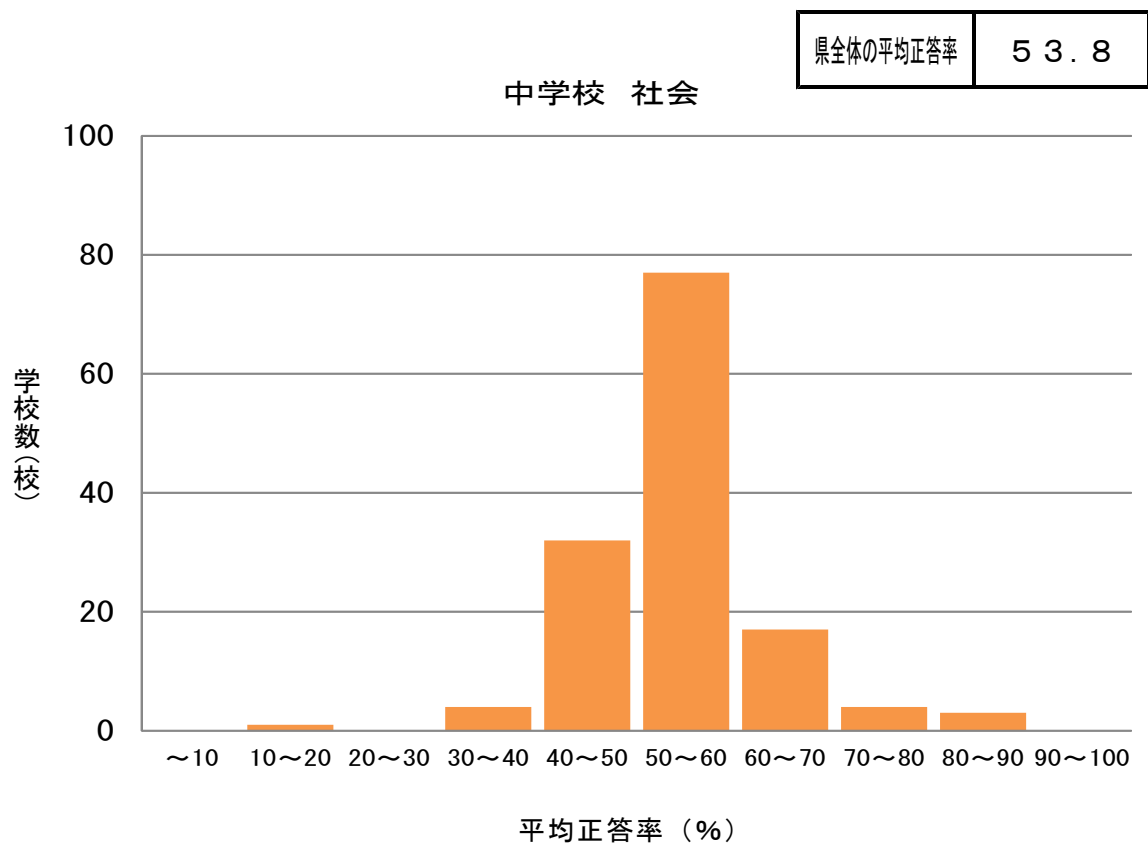
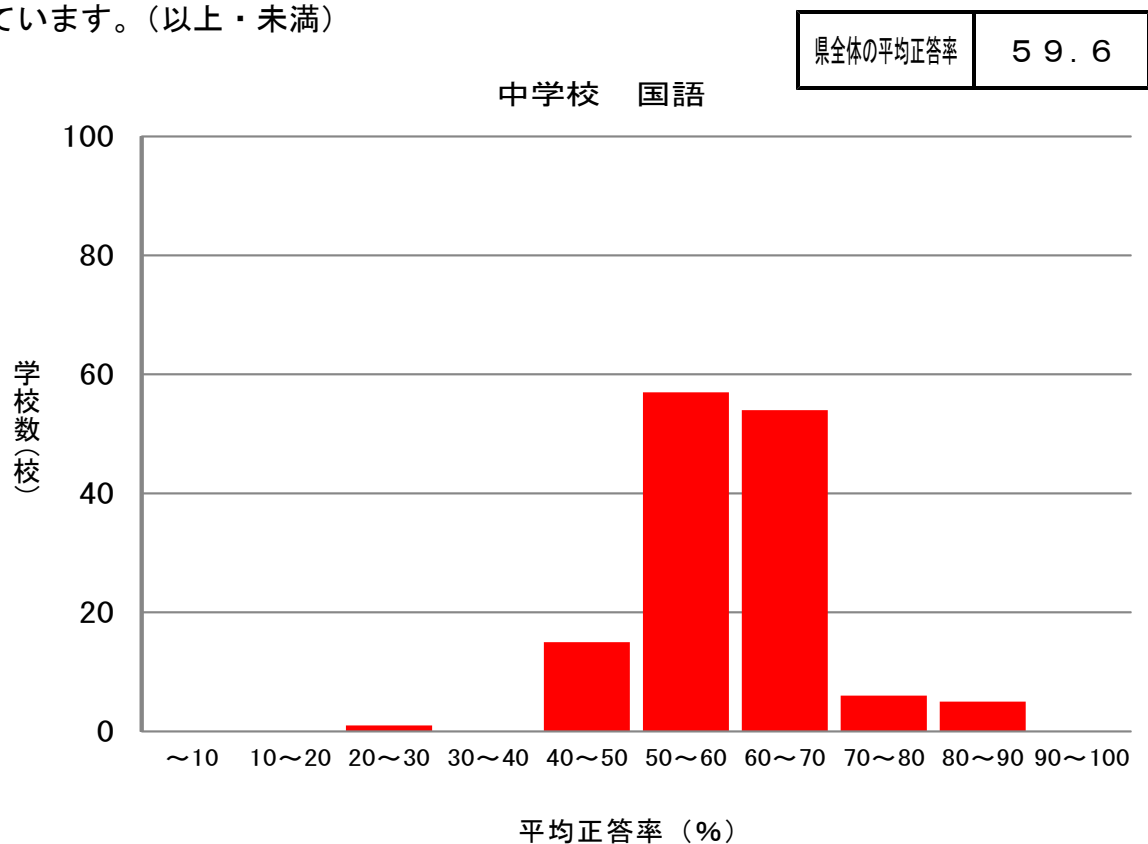
県全体の平均正答率

67.2



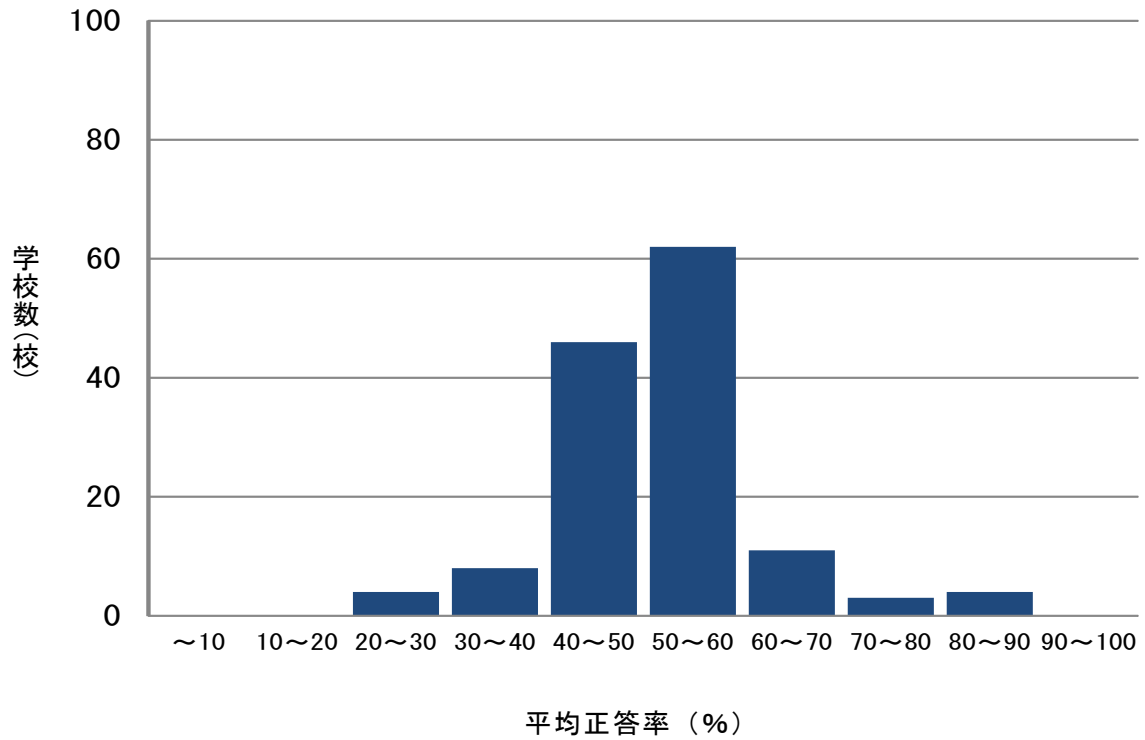
2 中学校における平均正答率の分布

各教科の正答率分布グラフについて、縦軸は学校数、横軸は各学校における平均正答率を表示しています。(以上・未満)



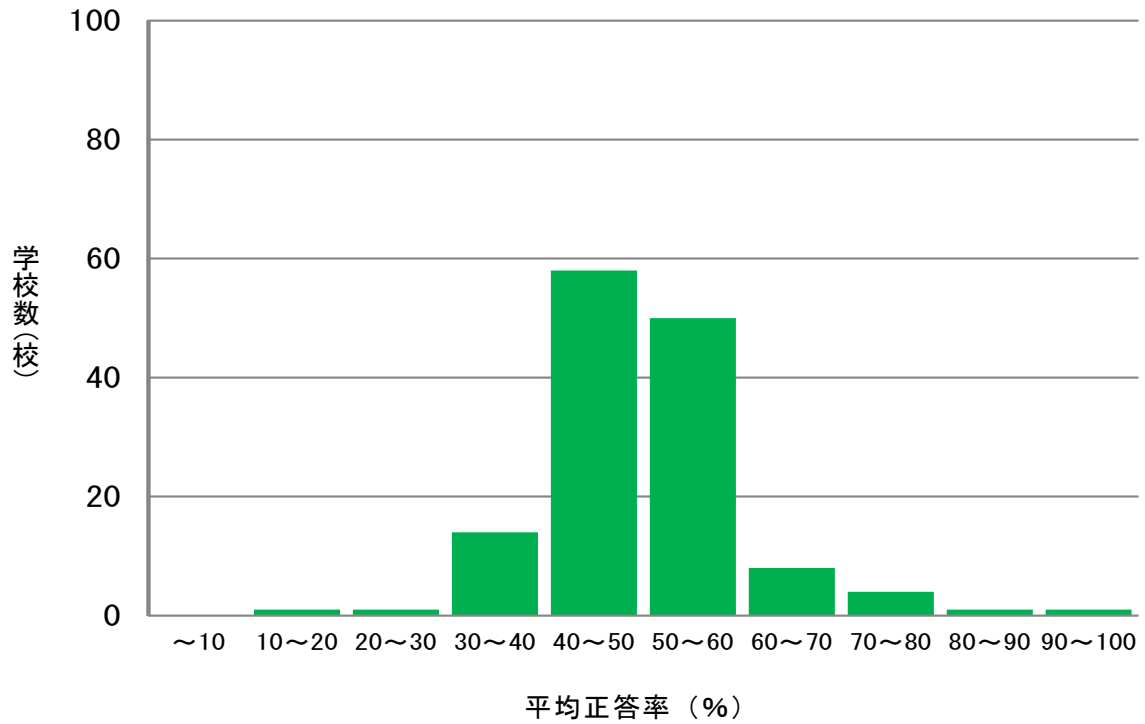
県全体の平均正答率 51.8

中学校 数学



県全体の平均正答率 49.0

中学校 理科



県全体の平均正答率

62.4

中学校 英語

